

## 平成17年第2回那須烏山市議会臨時会（第1日）

平成17年11月29日（火）

開会 午前10時00分

閉会 午後 3時48分

## ◎出席議員（35名）

1 番	五味 洵 博 君	2 番	佐 藤 昇 市 君
3 番	沼 田 邦 彦 君	4 番	高津戸 茂 君
5 番	高 橋 安 隆 君	6 番	高 徳 正 治 君
7 番	舩 山 栄 一 君	8 番	平 山 進 君
9 番	大 橋 洋 一 君	10 番	佐 藤 雄次郎 君
11 番	五味 洵 親 勇 君	12 番	野 木 勝 君
13 番	藤 田 武 君	14 番	大 野 曄 君
15 番	水 上 正 治 君	16 番	平 塚 金 平 君
17 番	中 山 五 男 君	18 番	郡 司 昭 三 君
19 番	塩 谷 隆 君	20 番	柴 野 正 巳 君
21 番	斎 藤 雄 樹 君	22 番	樋 山 隆四郎 君
23 番	板 橋 邦 夫 君	24 番	森 井 國 廣 君
25 番	菊 池 俊 夫 君	26 番	斎 藤 文 男 君
27 番	玉 造 三 好 君	28 番	滝 田 志 孝 君
29 番	小 池 清 三 君	30 番	高 田 悦 男 君
31 番	小 森 幸 雄 君	32 番	永 山 茂 君
33 番	小 堀 操 君	34 番	青 木 一 夫 君
35 番	平 塚 英 教 君		

## ◎欠席議員（なし）

## ◎説明のため出席した者の職氏名

市長	大 谷 範 雄 君
教育長	池 澤 進 君
総務部長	大 森 勝 君
市民福祉部長	雫 正 俊 君
経済環境部長	佐 藤 和 夫 君

建設部長

池 尻 昭 一 君

教育次長

堀 江 一 慰 君

◎事務局職員出席者

事務局長

田 中 順 一

書 記

齋 藤 進

書 記

藤 田 元 子

書 記

菊 地 唯 一

## ○議事日程

- 日程 第 1 会議録署名議員の指名について（議長提出）
- 日程 第 2 会期の決定について（議長提出）
- 日程 第 3 議案第13号 那須烏山市教育委員会委員の任命同意について（市長提出）
- 日程 第 4 議案第14号 那須烏山市固定資産評価審査委員会委員の選任同意について（市長提出）
- 日程 第 5 議案第15号 那須烏山市監査委員の選任同意について（市長提出）
- 日程 第 6 選挙第 1号 那須烏山市選挙管理委員会委員並びに同補充員の選挙について（議長提出）
- 日程 第 7 議案第10号 那須烏山市議会の議員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について（市長提出）
- 日程 第 8 議案第11号 那須烏山市長等給与及び旅費条例の一部改正について（市長提出）
- 日程 第 9 議案第12号 那須烏山市職員給与条例の一部改正について（市長提出）
- 日程 第10 議案第 1号 平成17年度那須烏山市一般会計予算について（市長提出）
- 日程 第11 議案第 2号 平成17年度那須烏山市国民健康保険特別会計予算について（市長提出）
- 日程 第12 議案第 3号 平成17年度那須烏山市熊田診療所特別会計予算について（市長提出）
- 日程 第13 議案第 4号 平成17年度那須烏山市老人保健特別会計予算について（市長提出）
- 日程 第14 議案第 5号 平成17年度那須烏山市介護保険特別会計予算について（市長提出）
- 日程 第15 議案第 6号 平成17年度那須烏山市農業集落排水事業特別会計予算について（市長提出）
- 日程 第16 議案第 7号 平成17年度那須烏山市下水道事業特別会計予算について（市長提出）
- 日程 第17 議案第 8号 平成17年度那須烏山市簡易水道事業特別会計予算について（市長提出）

日程 第18 議案第 9号 平成17年度那須烏山市水道事業会計予算について（市長提出）

---

○本日の会議に付した事件

議事日程に同じ

**〔午前10時00分開会〕**

**○議長（青木一夫君）** ただいまの出席議員は35名です。定足数に達しておりますので、平成17年第2回那須烏山市議会臨時会を開会いたします。

本日の会議を開きます。

日程に入る前に報告いたします。地方自治法第121条の規定に基づき、市長以下関係部長の出席を求めていますので、ご了承願います。

次に、本日の臨時会にあたり、去る9月24日に議会運営委員会を開き、議会運営委員会の決定に基づき会期及び日程を編成いたしましたので、ご協力くださるようお願い申し上げます。

---

**◎市長あいさつ**

**○議長（青木一夫君）** 市長のごあいさつがあります。

市長大谷範雄君。

**〔市長 大谷範雄君 登壇 あいさつ〕**

**○市長（大谷範雄君）** おはようございます。那須烏山市長の大谷範雄でございます。ごあいさつを申し上げます。

本日、ここに平成17年第2回那須烏山市議会臨時会を開催させていただきましたところ、議員各位におかれましては大変寒さ厳しき折、ご多用中にもかかわらずご参集を賜りましたこと、まことにありがたく厚くお礼を申し上げます。

今期臨時会は、10月1日に合併誕生いたしました新生那須烏山市の市長選挙後の初議会でもございます。いわば歴史的な幕あけの1ページともなります意義のある議会、このように認識をいたしております。私を初めといたしまして執行部一同、誠心誠意相務める所存でございます。よろしく願いを申し上げます。

さて、私は初代市長といたしまして、11月6日、那須烏山市長選挙におきまして当選をさせていただき就任をいたしました。新市のかじ取り役を任されることとなりました。この歴史的な大転換期に立ち会うことができる幸運に感謝をしてやみません。生まれたての那須烏山市が、夢と希望あふれるふるさととして多くの人々に愛され、全国でもきらりと光るまちづくりや自立をした住民主役のまちづくりを具現化していきたいと考えております。

ここで所信及び私がこれから描きますまちづくり政策の概要につきまして述べさせていただきますと考えております。

まず第1に、自立を目指すまちづくりであります。皆さんの思いと英知を集めて那須烏山市が生まれました。私は、この時代の節目に立ち会うことができました天のときに感謝をしてお

ります。しかし、新市が歩むべき道は決して平坦ではございません。未来につなぐ新市をつくるために、今こそ行財政改革を力強く推進しなければならないと考えております。両町合併にかかわりました一人といたしまして、私はこの課題に積極的に取り組んでまいります。

今まさに行財政改革の断行が必要なときであります。内容的には、私は攻めと守りの行財政改革を行っていきたいと思っております。攻めの行財政改革とは、一口で言うならば、税収アップ対策であります。つまり、定住、交流人口の増加促進あるいは企業誘致の推進、農業、商業、工業連携、協調した差別化をした特産品の開発と経済効果の向上を図ってまいります。さらに、若者から中高年及び女性の雇用支援、これらを積極的に行っていきたいと考えております。

一方、守りの行財政改革につきましては、新市行政改革大綱のもと実現可能で、かつ明確に数値目標を掲げ、実行してまいる所存であります。特別職及び職員定数適正化計画を明示をし、実行してまいりたいと思います。さらに、補助金、負担金の抜本的見直し等も行っていきたい。また、全町を挙げた未納対策にも取り組んでまいりたいと考えております。

民間活力の導入と住民協働の推進をしていきたい。さらに意識改革を図るために職員の人事評価制度も導入をいたしまして、意識を大いに改革をしていきたいと思っております。今、民間活力の導入を申し上げましたけれども、市場化テスト、いわゆる官民の競争入札制度及び指定管理者制度の導入も図っていきたいと思っております。

行政サービス適正化のための行政評価導入、これらも今行っておりますが、さらに拡大をして拡充をしていきたい。そして費用対効果の効率のアップを図っていかなければならないと考えております。

2町は合併をいたしました、合併特例債の事業もこれから子細に検討していくこととなりますが、合併特例債の活用は必要最小限にとどめる所存であります。つまり、攻めと守りの行財政改革を織りまぜたことによりまして、財政力指数、当面、県平均レベルにまで引き上げを目指したいと考えております。

次に、地の利を生かしたまちづくりであります。当地域は豊かな自然と文化資源がございます。私はこれらの数多くの資源を生かして伝統と文化が生きるふるさと、ありのままの自然を生かすふるさと、夢いっぱいの楽しいふるさとを創出する具体的なビジョンを実行いたしたいと思っております。

那須烏山市は、幸いにも災害が大変少ない安全な地域でございます。首都圏から2時間、宇都宮から30分の位置にございます。この地の利を生かした都市から交流人口の増加、少子化対策といたしましての定住人口の増加を図るための事業を展開をしてまいりたいというような考えを持っております。安全で安心して暮らせるまちづくりの中で、災害、犯罪を未然に防ぐ

対策の推進やあるいは公害のない自然を守りながら、住環境の整備促進も喫緊の課題であると認識をいたしております。

また、地域活性化のための地域の特性を生かしたテーマパークづくり、例えば全町花公園構想等、あるいは交流人口増加のためのイベント観光事業の積極的な支援も行っていきたい。このように思っております。定住人口増加のためには、行政のインフラあるいは繰り返しになります企業あるいは住宅誘致事業も大いに推進をしていかなければならないと思っております。

さらに市内道路交通網の整備拡充や通学路の安全確保を目的といたしました子供たちの安全確保も推進をしていかなければならないと考えております。

那須烏山市の基幹産業でもあります従来の農業農村の文化を継承しつつも、新たな農業農村文化の振興と特産品育成事業も推進をしていく必要性を感じております。また、産学官事業の育成も積極的に支援をしてまいりたいと考えております。

さらに、ＪＲ烏山線、粘り強いスピードアップ化対策の要望あるいは宇都宮への直接乗り入れ、あるいは山あげ号、いかんべ号などの増発列車の要望、これらも私は喫緊の課題であると考えております。

県都60分構想の中で、県道宇都宮烏山線、高瀬トンネル、三百沢地内の道路拡幅及び国道293号及び294号の主要国県道の整備促進にも積極的に取り組んでまいりたいと思います。

那珂川、荒川、江川の河川改修事業推進も安全で安心なまちづくり改革といたしまして喫緊の課題であります。積極的な要望活動と地域住民の調整を推進してまいりたいと思っております。

3つ目は、人の和が生きるまちづくりであります。合併を生かし、大きな活力を醸成させるためには、住民同士が同じ那須烏山市民としての意識、地域間の垣根を取り払った人の和が何よりも大切であると考えております。地方自治体の活力をよみがえらせるには、今こそ発想の転換が必要であると感じております。住民が主役のまちづくり、行政は住民が株主の株式会社であるとの視点に立って、人の和が生きる有為な住民活動、産学官連携事業などへの支援体制を確立していきたいと思っております。

那須烏山市独自の教育・文化の振興、心安らぐまちづくりは大変重要なことであると思っております。教育・文化育成事業の確立、子育て支援の推進、教育文化、体育施設の整備促進、子供を生かす教育システムの導入、歴史遺跡、郷土芸能の継承と文化活動の振興、自然環境の保全などが挙げられると思います。

人が生きる活動も支援をしていきたいと思っております。高齢者にやさしいまちづくり、住民交流センターの整備促進、女性と若者が輝きをますまちづくり、福祉事業の推進、ボランティア活動、ＮＰＯ活動の支援、中心市街地活性化対策、これらの問題の推進、福祉、医療、保

健体制の充実、地域助け合い運動の実施など、住民のまちづくりを目指した官民協働体制の確立の必要性も感じております。

若者、女性、市民が活躍できる環境整備の促進も必要でありましょう。民主導によりますまちづくり委員会、仮称であります。逐次設置をしてまいりたいと思います。

また、山あげ祭、いかんべ祭、オオムラサキの里、あるいはタウンイルミネーションなどの新旧相まった行催事への積極的な支援も行っていきたいと考えております。

障害者、高齢者の福祉バスの運行等の実現化も図っていく必要を感じております。国際交流の事業の推進、これらも人の和としては当然大切な事業であると思っております。

那須烏山市のまちづくり計画は、総合計画といたしまして位置づけをしたいと考えております。まず、長期的な視点に立ったまちづくり計画、つまり基本構想、これは10カ年を考えております。また、基本構想の実現化を図るために、まちづくり編、行政経営編の2本立てからなる基本計画は、前期、後期各々5年と考えております。さらに、財政計画との整合を図りながら、基本計画でお示しをいたしました施策の実現化を図るために必要な主要事業を具体的に示すことといたしております。

実施計画は、向こう5年間のローリング方式をおおむね考えております。現在詳細につきまして検討中ではありますが、今後の予定といたしまして、基本構想、基本計画、実施計画を包含いたしました那須烏山市総合計画は、平成19年度中の議決を予定いたしております。しかしながら、私の公約等も踏まえました総合計画でありますことから、喫緊に必要と思われる重要な事項、住民の皆さんの強い要望等もございますことから、平成18年度、平成19年度におきましても、実施計画等を前倒し計画として実行してまいりたいと思いますので、ご理解を賜りたいと存じます。

終わりにになりますが、私の政治信条といたしました中の一つに、「天の時は地の利に如かず、地の利は人の和に如かず」という孟子の言葉がございます。新生那須烏山市の歩むべき道は決して平坦ではございません。しかしながら、皆さんの思いと英知を結集して誕生いたしました那須烏山市には、豊かな自然環境と貴重な文化資源がございます。これらを最大限に生かすことで夢いっぱいふるさとづくりが可能だと考えております。しかし、これらを成就させるには、地域の垣根を取り払った行政、市民の融合が何よりも重要なことであります。それらのことを念頭におきまして、常に市民の目線に立った姿勢を公平で公正で誠実に行っていきたいと考えております。

以上が、那須烏山市長に就任をいたしました私の所信、政策の概要等でございます。一部施策等に言及をいたしましたことをご了承賜りたいと存じます。これらを踏まえた年次ごとの実施計画を着実に実現化して、那須烏山市民の福祉向上に全力で取り組んでいきたいと考えてお



ります。

さて、今期臨時会は、平成17年度那須烏山市一般会計予算について1件、国民健康保険特別会計予算について外特別会計予算計7件、及び水道事業会計予算について1件、条例の一部改正を3件、人事案件3件、議会関係案件1件、合計15議案、選挙案件1件、合計16議案を上程をさせていただきます。何とぞ慎重審議を賜りまして、可決、ご決定あるいはご同意賜りますようお願いを申し上げます、ごあいさつとさせていただきます。ありがとうございます。

○議長（青木一夫君） 本日の議事日程はお手元に配付のとおりであります。事務局長に朗読いたさせます。

〔事務局長 朗読〕

#### 議事日程

平成17年第2回那須烏山市議会臨時会（第1日）

- |        |        |                                    |        |
|--------|--------|------------------------------------|--------|
| 開      | 議      | 平成17年11月29日                        | 午前10時  |
| 日程 第1  |        | 会議録署名議員の指名について                     | （議長提出） |
| 日程 第2  |        | 会期の決定について                          | （議長提出） |
| 日程 第3  | 議案第13号 | 那須烏山市教育委員会委員の任命同意について              | （市長提出） |
| 日程 第4  | 議案第14号 | 那須烏山市固定資産評価審査委員会委員の選任同意について        | （市長提出） |
| 日程 第5  | 議案第15号 | 那須烏山市監査委員の選任同意について                 | （市長提出） |
| 日程 第6  | 選挙第1号  | 那須烏山市選挙管理委員会委員並びに同補充員の選挙について       | （議長提出） |
| 日程 第7  | 議案第10号 | 那須烏山市議会の議員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について | （市長提出） |
| 日程 第8  | 議案第11号 | 那須烏山市長等給与及び旅費条例の一部改正について           | （市長提出） |
| 日程 第9  | 議案第12号 | 那須烏山市職員給与条例の一部改正について               | （市長提出） |
| 日程 第10 | 議案第1号  | 平成17年度那須烏山市一般会計予算について              | （市長提出） |
| 日程 第11 | 議案第2号  | 平成17年度那須烏山市国民健康保険特別会計予算につ          |        |

いて（市長提出）

日程 第12 議案第 3号 平成17年度那須烏山市熊田診療所特別会計予算について（市長提出）

日程 第13 議案第 4号 平成17年度那須烏山市老人保健特別会計予算について（市長提出）

日程 第14 議案第 5号 平成17年度那須烏山市介護保険特別会計予算について（市長提出）

日程 第15 議案第 6号 平成17年度那須烏山市農業集落排水事業特別会計予算について（市長提出）

日程 第16 議案第 7号 平成17年度那須烏山市下水道事業特別会計予算について（市長提出）

日程 第17 議案第 8号 平成17年度那須烏山市簡易水道事業特別会計予算について（市長提出）

日程 第18 議案第 9号 平成17年度那須烏山市水道事業会計予算について（市長提出）

以上、朗読を終わります。

---

#### ◎日程第1 会議録署名議員の指名について

○議長（青木一夫君） 日程第1 会議録署名議員の指名を行います。会議録署名議員の指名について。会議録署名議員は、会議規則第80条の規定により、議長において

3番 沼田 邦彦君

4番 高津戸 茂君を指名いたします。

---

#### ◎日程第2 会期の決定について

○議長（青木一夫君） 次に、日程第2 会期の決定についてを議題といたします。

お諮りいたします。

本臨時会の会期は、本日1日としたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） 異議なしと認めます。

よって、本臨時会の会期は本日1日と決定いたしました。

◎日程第3 議案第13号 那須烏山市教育委員会委員の任命同意について

○議長（青木一夫君） 次に、日程第3 議案第13号 那須烏山市教育委員会委員の任命同意についてを議題といたします。

ここで教育長池澤 進君の退席を求めます。

市長の提案理由の説明を求めます。

市長大谷範雄君。

〔市長 大谷範雄君 登壇〕

○市長（大谷範雄君） ただいま上程となりました議案第13号 那須烏山市教育委員会委員の任命同意につきまして、提案理由の説明を申し上げます。

那須烏山市誕生に伴いまして、新しく教育委員会委員に任命をしたいので、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第4条の規定に基づきまして、5人の委員の議会の同意を求めるものでございます。野上玲子氏、仁野平篤夫氏、池澤 進氏は、旧烏山町教育委員会委員として、また塩野榮司氏、高野由美子氏は、旧南那須町教育委員として長年にわたりご活躍をされた方たちばかりであります。

この5人の方々は、現在暫定教育委員会委員といたしましてご活躍をいただいております、新しい時代を拓く教育振興のため、人格円満かつ高潔でありまして、しかも教育、学術及び文化に高い識見を有している方々でございます。

なお、各委員の任期は、合併後最初に任命される委員の任期の規定によりまして、1年から4年までとなります。

ご審議の上、ご同意くださいますようお願いを申し上げまして、提案理由の説明とさせていただきます。

○議長（青木一夫君） 以上で、市長の提案理由の説明が終わりました。これより質疑を行います。

25番菊池俊夫君。

○25番（菊池俊夫君） ただいま同意を求める教育委員の任命につきましては人事案件でもありますので、質問、討論を省略して任命に同意することをご提案申し上げます。ただいまの説明のように、野上玲子氏外4名の教育委員については、既に10月1日から暫定委員としてその職にあり、これをすべて再任とするということでございます。いずれの方々も教職の経歴を持っていたり、なお、教育委員としても長い期間にわたる経歴をお持ちで、教育についての造詣は非常に深い方々でございますので、賛成のための動議を提出するものであります。

○議長（青木一夫君） ただいま25番菊池俊夫君から、質疑を打ち切り討論を省略して、原案のとおり決定されたいとの動議が提出されました。この動議にご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） 28番滝田志孝君。

○28番（滝田志孝君） 議案第13号、ただいまの教育委員の任命の同意についてなんですが、何ら私も人選的には問題ないんですが、先ほど市長から1年から4年の任期ということなんですが、どなたが1年でどなたが4年なのか、その点をお伺いをいたします。

○議長（青木一夫君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） お答えを申し上げます。1年が野上玲子氏、2年が高野由美子氏、3年が仁野平篤夫氏、4年が塩野榮司氏及び池澤 進氏。

以上であります。

○28番（滝田志孝君） 了解。

○議長（青木一夫君） よろしいですか。ただいま申し上げたように、菊池俊夫君から質疑を打ち切り、討論を省略する動議が提出されました。ご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） 異議なしと認めます。

20番柴野正巳君。

○20番（柴野正巳君） ただいま25番の菊池議員の動議に賛成をいたします。

○議長（青木一夫君） 質疑打ち切りの動議が成立いたしました。本動議を議題といたし、採決いたします。議案第13号については本動議のとおり、決定することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） 異議なしと認めます。

したがって、議案第13号 教育委員の任命について同意を求めることについては、原案のとおり決定いたしました。

池澤 進君の着席を求めます。池澤 進君に申し上げます。教育委員に池澤 進君初め5名の教育委員が選任同意されました。ここで、教育委員に任命された池澤 進君のごあいさつがあります。

〔教育長 池澤 進君 登壇 あいさつ〕

○教育長（池澤 進君） ごあいさつ申し上げます。ただいま那須烏山市教育委員会教育委員の任命同意を賜りまして、大変緊張いたしているところでございます。ご同意いただいたからには、地域の子供たち、保護者、そして地域住民が住んでよかった、学んでよかったという教育環境づくり、住み続けたい、学び続けたいという生涯学習環境の構築に誠実に努力してま

いる所存でございます。つきましては、議員の皆さん方にどうぞ指導とご助言賜りまして、生来浅学非才の私でございますが、負託にこたえられるように精一杯の努力をするつもりでございますので、どうぞよろしくお願いいたします。

---

◎日程第4 議案第14号 那須烏山市固定資産評価審査委員会委員の選任同意について

○議長（青木一夫君） 日程第4 議案第14号 那須烏山市固定資産評価審査委員会委員の選任同意についてを議題といたします。

議案を朗読いたさせます。

〔書記 朗読〕

議案第14号

那須烏山市固定資産評価審査委員会委員の選任同意について

那須烏山市固定資産評価審査委員会委員として、次の者の選任について地方税法（昭和25年法律第226号）第423条第3項の規定により議会の同意を求める。

平成17年11月29日提出

那須烏山市長 大谷 範 雄

以上でございます。

○議長（青木一夫君） 提案理由の説明を求めます。

市長大谷範雄君。

〔市長 大谷範雄君 登壇〕

○市長（大谷範雄君） ただいま上程となりました議案第14号につきまして、提案理由の説明を申し上げます。

那須烏山市固定資産評価審査委員会委員の選任同意についてであります。那須烏山市誕生に伴いまして、新しく固定資産評価審査委員会委員を選任をしたいので、地方税法第423条第3項の規定に基づきまして、3人の委員の議会の同意を求めるものであります。

町井文治氏、横山通有氏、両名は旧烏山町の固定資産評価審査委員会委員といたしまして、

増山善昭氏は旧南那須町の固定資産評価審査委員会委員として、長年にわたりご活躍をされた方たちばかりであります。この3人の方々は現那須烏山市の固定資産評価審査委員会委員を務められておりまして、人格、見識ともに高く、また厳正、公平で本職に適任であります。したがって、ご審議の上、ご同意くださいますようお願い申し上げまして、提案理由の説明といたします。

○議長（青木一夫君） 以上で、市長の提案理由の説明が終わりました。

これにより質疑に入ります。質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） 質疑がないようですので、議長において議事進行し、これで質疑を打ち切ることにご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） 異議なしと認めます。

よって、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） 次に、賛成討論の発言を許します。

23番板橋邦夫議員。

〔23番 板橋邦夫君 登壇〕

○23番（板橋邦夫君） ただいま上程中の議案第14号 那須烏山市固定資産評価審査委員会委員の選任同意について、賛成の立場から討論を行います。

ご承知のように、固定資産評価審査委員会は、評価額への不服を受ける機関であり、固定資産は土地、家屋、償却資産の3種でありまして、土地に精通した人、また家屋に精通した人、そして償却資産に精通した人で構成されるのが望ましいと考えます。

こうした観点から、今回提案されました那須烏山市南1丁目9番27号の町井文治氏は、元旧烏山町職員として勤務され、税務課長等を歴任され、退職後その職責が認められ、旧烏山町固定資産評価審査委員として長年にわたりその職務にあたられたという功績があり、税制面においては極めて精通されている方であります。

また、那須烏山市神長536番地の横山通有氏は、大学卒業後、元栃木新聞記者として勤務されておりましたが、実家を守るために早くしてふるさとに戻り、農業経営、そして林業経営のかたわら賃貸住宅産業のオーナーとして大変幅広い分野で活躍されている方で、税制面の知識は卓越したものを持っている方であります。

また、那須烏山市大金151番地9、増山善昭氏におかれましては、元滋賀金属株式会社の代表取締役として地域の産業経済の発展に大変寄与された方であると聞いております。こうした観点から、旧南那須町の固定資産評価審査委員会の委員として長年にわたりその職務にあたられ、土地税制あるいは住宅税制に極めて精通した方であり、審査委員として適任であると思います。

以上、申し上げましたように、3人の方は幅広い分野で活躍されており、また固定資産評価審査委員として最もふさわしい方々であると思いますので、原案に対しまして何とぞご賛成くださいますようお願いを申し上げまして、賛成討論といたします。よろしくお願いいたします。

○議長（青木一夫君） ほかに討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） ほかに討論がないので、これで討論を終結いたします。

採決いたします。日程第4 議案第14号については、原案のとおり同意することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） 異議なしと認めます。

よって、日程第4 議案第14号 那須烏山市固定資産評価審査委員会委員の選任同意については、原案のとおり同意することに決定いたしました。

---

#### ◎日程第5 議案第15号 那須烏山市監査委員の選任同意について

○議長（青木一夫君） 日程第5 議案第15号 那須烏山市監査委員の選任同意についてを議題といたします。

ここで、1番五味淵 博君の退席を求めます。

議案を朗読いたさせます。

〔書記 朗読〕

議案第15号

那須烏山市監査委員の選任同意について

那須烏山市監査委員として、次の者の選任について地方自治法（昭和22年法律第67号）第196条第1項の規定により議会の同意を求める。

平成17年11月29日提出

那須烏山市長 大 谷 範 雄

以上でございます。

○議長（青木一夫君） 提案理由の説明を求めます。

市長大谷範雄君。

〔市長 大谷範雄君 登壇〕

○市長（大谷範雄君） ただいま上程となりました議案第15号 那須烏山市監査委員、識見を有する者及び議員選出の選任同意について提案理由の説明を申し上げます。

那須烏山市誕生に伴いまして、新しく監査委員を選任をしたいので、地方自治法第196条の規定に基づき、2人の委員の議会の同意を求めるものでございます。識見を有する委員といたしまして富永年秋氏を、議員選出の委員といたしまして五味渕 博氏を選任するものであります。

富永氏は烏山信用金庫常勤理事や旧南那須町で監査委員としてご活躍をされました。また、五味渕議員は行政運営に関しすぐれた識見を有しております。お二人とも温厚篤実で、人格、識見ともに監査委員にふさわしい方でございます。ご審議の上、ご同意くださいますようお願いを申し上げまして、提案理由の説明とさせていただきます。

○議長（青木一夫君） 以上で、市長の提案理由の説明が終わりました。

これより質疑に入ります。

〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） 質疑はありませんか。質疑がないようですので、議長において議事進行し、これで質疑を打ち切ることにご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） 異議なしと認めます。

よって、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。まず、本案に対する反対討論の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） 次に、賛成討論の発言を許します。

4番高津戸 茂君。

〔4番 高津戸 茂君 登壇〕

○4番（高津戸 茂君） ただいま市長提出の那須烏山市監査委員の選任同意について、賛



成の立場で討論を申し上げます。

有識者より選任の富永年秋氏ですが、経歴を簡単に紹介しますと、大蔵省関東財務局に33年3カ月勤務されました。平成6年からは先ほど市長がご紹介したように、烏山信用金庫に勤務、常勤理事、常勤監査の要職につかれ、平成16年に退職されました。その後、平成17年度からは旧南那須町の代表監査委員として選任されました。富永氏の豊富な経験と高い見識からの旧町時代における監査委員としての実績は、議員だれもが認めるところであります。

また、議員より推薦した選任の五味渕 博氏ですが、私が紹介するまでもありませんが、現役のプロの税理士でもあります。すなわち最適任者を選任したと考えております。

行財政改革が求められる今日、監査委員の責務は重要であります。その点、この両氏は鬼に金棒と申しますか、最適な人事として監査委員の職務を高いレベルで遂行していただけるものと確信しております。

以上の理由で、議案第15号に対する賛成をいただけますようお願いいたしまして、賛成討論といたします。

○議長（青木一夫君） ほかに討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） ほかに討論がないので、これで討論を終結いたします。

採決いたします。日程第5 議案第15号については、原案のとおり同意することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） 異議なしと認めます。

よって、日程第5 議案第15号 那須烏山市監査委員の選任同意については、原案のとおり同意することに決定いたしました。

五味渕 博議員の復席を求めます。

---

## ◎日程第6 選挙第1号 那須烏山市選挙管理委員会委員並びに同補充員の選挙について

○議長（青木一夫君） 日程第6 選挙第1号 那須烏山市選挙管理委員会委員並びに同補充員の選挙についてを議題といたします。

暫時休憩をいたします。執行部の皆さんは連絡するまで退席願います。

休憩 午前10時45分

再開 午前10時46分

○議長（青木一夫君） 再開いたします。

議案を朗読いたさせます。

〔書記 朗読〕

選挙第1号

那須烏山市選挙管理委員会委員並びに同補充員の選挙について

地方自治法（昭和22年法律第67号）第182条第1号及び第2号の規定により、那須烏山市選挙管理委員会委員並びに同補充員の選挙を行うものとする。

平成17年11月29日提出

那須烏山市議会議長 青 木 一 夫

以上でございます。

○議長（青木一夫君） お諮りいたします。選挙管理委員会委員並びに同補充員の選挙については、地方自治法第182条の規定により、地方公共団体の議会において選挙をし、同補充員についても同数の補充員を選挙することになっております。なお、選挙管理委員会委員の選任は本人の承諾が必要であります。各委員候補については内諾をいただいておりますので、ご報告いたします。

以上の規定により、選挙管理委員会委員並びに同補充員の選挙を行います。

お諮りいたします。選挙の方法は地方自治法第118条第2項の規定より、指名推選によりたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） 異議なしと認めます。したがって、選挙の方法は指名推選によることにいたします。

お諮りいたします。指名の方法については議長において指名することにしたいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） 異議なしと認めます。議長において指名することに決定いたしました。選挙管理委員には五味淵文男君、長谷川靖男君、宇梶俊郎君、飯野謙一君、以上の方を指

名いたします。補充員には平石和雄君、佐竹信哉君、古家悦代君、久郷啓二君、以上の方を指名いたします。

お諮りいたします。議長において指名いたしました方を選挙管理委員並びに同補充員の当選人と定めることにご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） 異議なしと認めます。したがって、ただいま指名した方が選挙管理委員並びに同補充員に当選されました。

次に、補充員の順序についてをお諮りいたします。補充員の順序は代表者によるくじで決定したいと思いますが、ご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） 異議なしと認めます。それでは抽選者には平石和雄君の代理に斎藤雄樹議員、佐竹信哉氏の代理に滝田志孝議員、古家悦代氏の代理に斎藤文男議員、久郷啓二氏の代理人に中山五男議員をお願いいたします。抽選は2回行います。最初にくじを引く順序、次に本抽選といたします。代表の方は前にお進み願います。

〔抽選〕

○議長（青木一夫君） 抽選の結果を報告いたします。1番佐竹信哉君、2番古家悦代君、3番平石和雄君、4番久郷啓二君、以上のとおりであります。したがって、補充員の順序についてはただいま指名した順序に決定いたしました。

それでは休憩いたします。

休憩 午前10時53分

再開 午前11時05分

---

◎日程第7 議案第10号 那須烏山市議会の議員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について

○議長（青木一夫君） 日程第7 議案第10号 那須烏山市議会の議員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正についてを議題といたします。

議案を朗読いたさせます。

〔書記 朗読〕

議案第10号

那須烏山市議会の議員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について

那須烏山市議会の議員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部を改正する条例を別紙のとおり定める。

平成17年11月29日提出

那須烏山市長 大 谷 範 雄

以上でございます。

○議長（青木一夫君） 本案について、提案理由の説明を求めます。  
市長大谷範雄君。

〔市長 大谷範雄君 登壇〕

○市長（大谷範雄君） ただいま上程となりました議案第10号 那須烏山市議会の議員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正について、提案理由の説明を申し上げます。

本年度の人事院給与勧告に準じまして、那須烏山市議会議員の期末手当の支給額を決定するものでございます。今回の一般職員の給与改定に準じまして、議会の議員の期末手当につきましては支給率を0.05月分引き上げる内容の改正となっております。

詳細につきましては総務部長より説明申し上げますので、何とぞ内容をご審議の上、可決、ご決定賜りますようお願いを申し上げまして、提案理由の説明といたします。

○議長（青木一夫君） 次に、補足説明を求めます。  
総務部長。

○総務部長（大森 勝君） 議案第10号について補足説明を申し上げたいと思います。

2枚目をお開きいただきたいと存じます。第6条第2項につきましては、6月と12月に支給する期末手当について定めた条文でございます。今回職員の勤勉手当が100分の5引き上げられるため、職員同様12月に支給する期末手当を100分の170を100分の175に改めるものでございます。これに伴い、議員1人当たり1万3,513円の増額になってまいります。議員総体では48万430円の所要額が増えるということになります。

施行期日につきましては、12月1日から施行することとしたものでございます。

以上です。

○議長（青木一夫君） 以上で、市長の提案理由の説明及び補足説明が終わりました。  
これにより質疑を行います。

30番高田悦男君。

○30番（高田悦男君） それでは、ただいま上程中の第10号議案について、反対の立場で意見を申し上げます。

去る宇都宮の議会では、市長並びに議員の引き上げは行わないと報道されたことを記憶しております。したがって、職員は年間を通して給与は下がる。その分を特別手当で引き上げる。しかし、その差はたしか2,700円ぐらいの年間平均の減少になると計算をされております。

したがって、私は議員の立場でこの議案には反対するものでございます。

○議長（青木一夫君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） 確かに、この後上程いたします職員等につきましては給与を0.3%減額をして、この手当で結果として補うというのはあれなんです、詳細は総務部長から説明させますが、平均して1,400云々の減額になるといった調整をさせていただきました。あくまでも人事院勧告に従いましての給与改定ということでございますので、それをご理解いただきまして、このようなことで提案理由のとおりご同意いただきたいと思います。以上でございます。

○議長（青木一夫君） ほかに質疑はございませんか。

35番平塚英教君。

○35番（平塚英教君） ただいま上程中の議案第10号 那須烏山市議会の議員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正ということでございます。今、市長の説明のとおり、これは人事院勧告に基づくものだということは重々理解をするわけですが、私も高田議員と同じような考えでございまして、財政が非常に厳しいということで合併をせざるを得ないということで合併をしたわけでございます。そういう中で、我々議員は在任特例ということで半年間お認めをいただいて、新市がスムーズにいくようにチェックをしなければならないということで、36名定数、35名が現在認められているわけでありまして。

そういう中で、議員が35名の中でこの引き上げを認めながら、職員の方は下げると、これはいかなるものかなというふうに思われます。先ほどの事例がありましたように、ほかの地方自治体でも職員を減らす中で、自分たちの手当を上げるということはできないということから、これをやらないところもあるわけでございますので、私もそういうふうにすべきではないかなというふうに思うんですが、もう一度ご答弁をいただきたいと思います。

○議長（青木一夫君） 市長。

○市長（大谷範雄君） お答えを申し上げます。今回の0.05月引き上げはあくまでも期末手当というようなことでございます。したがって、極めて行財政改革の中でも一時的な

ことに過ぎないのかなと考えておまして、いわばこの措置は人事院勧告の中でも一過性のものに過ぎない。永久的なものではないというように理解をいたしております。当然那須烏山市の行財政改革は新しくなしまして、これから行革大綱のもとでしっかりと数値を掲げた行財政改革を考えてまいります。

したがいまして、このことにつきましては、一時的な引き上げ策だろう。いわば調整額のかなというふうに思っておりますので、抜本的な行財政改革の範ちゅうにはないというふうに理解をしていることをかんがみまして、ぜひこれはご承認いただきまして、今後の行財政改革を徹底する一つの踏み石みたいなことになるのかなと考えておりますので、ぜひ本質的な行革の一環ではないということもご理解いただきまして、今回の人事院勧告等につきましてはぜひご同意いただきますようお願いを申し上げまして、答弁とさせていただきます。

○議長（青木一夫君） ほかに質疑はありませんか。

10番佐藤雄次郎君。

○10番（佐藤雄次郎君） ただいまの市長の人事院勧告に基づく趣旨もよくわかりました。でありますので、消極的ではありますが賛成します。

以上です。

○議長（青木一夫君） ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） 質疑がないようですので、議長において議事を進行し、これで質疑を打ち切ることにご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） 異議なしと認めます。

よって、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。まず、本案に対する反対討論の発言を許します。

35番平塚英教君。

〔35番 平塚英教君 登壇〕

○35番（平塚英教君） 議案第10号 那須烏山市議会の議員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正についてでございますが、これは先ほど市長提案がありましたように、人事院勧告に基づく市議会議員の期末手当の支給額を0.05カ月分引き上げることとございます。しかしながら、先ほども質疑の中で申し上げましたように、今、財政状況が非常に厳しいという中で合併をしたわけでございます。そういう中で、私ども議員は市民の皆さんから在任特例ということで半年間これが認められて、スムーズに那須烏山市が移行し、財政再建を図るということでチェックを任されているわけでありまして。

そういうさなか、職員には給与引き下げを迫り、自分たちが期末手当を引き上げるということにはどうしても同意しかねるということで、反対とさせていただきます。

○議長（青木一夫君） 次に、賛成討論の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） ほかに討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） ほかに討論がないので、これで討論を終結いたします。

採決いたします。日程第7 議案第10号について、原案のとおり可決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（青木一夫君） 挙手多数と認めます。

よって、議案第10号については、原案のとおり可決いたしました。

---

#### ◎日程第8 議案第11号 那須烏山市長等給与及び旅費条例の一部改正について

○議長（青木一夫君） 日程第8 議案第11号 那須烏山市長等給与及び旅費条例の一部改正についてを議題といたします。

議案を朗読いたさせます。

〔書記 朗読〕

議案第11号

那須烏山市長等給与及び旅費条例の一部改正について

那須烏山市長等給与及び旅費条例の一部を改正する条例を別紙のとおり定める。

平成17年11月29日提出

那須烏山市長 大谷 範 雄

以上です。

○議長（青木一夫君） 提案理由の説明を求めます。

市長大谷範雄君。

〔市長 大谷範雄君 登壇〕

○市長（大谷範雄君） ただいま上程となりました議案第11号 那須烏山市長等給与及び旅費条例の一部改正について、提案理由の説明を申し上げます。

本年度の人事院給与勧告に準じまして、那須烏山市長等給与の期末手当の支給額を決定するものでございます。一般職の給与改定に準じまして、市議会議員の皆様と同様市長等の期末手当につきましても支給率を0.05月分引き上げるという改正となっております。

詳細につきましては総務部長より説明申し上げますので、何とぞ内容をご審議の上、可決、ご決定賜りますようお願いを申し上げます、提案理由の説明とさせていただきます。

○議長（青木一夫君） 次に、補足説明を求めます。

総務部長。

○総務部長（大森 勝君） 市長提案理由にもありましたように、議会議員と同様に市長、助役、収入役の12月の期末手当の支給を100分の5引き上げるものでございます。これに伴いますと、平成17年度につきましては助役、収入役が欠けているということもございまして、市長につきましても現実適用をされて12月については支給するということになりますけれども、通常のベースに置きかえますと、3役総体では14万650円の増額になるということになります。

以上でございます。

○議長（青木一夫君） 以上で、市長の提案理由の説明及び補足説明が終わりました。これより質疑に入ります。

35番平塚英教君。

○35番（平塚英教君） 議案第11号ですが、市長等給与等関係の引き上げで、人事院勧告に基づく給与率を0.05カ月引き上げるということでございますが、今回改選されまして市長は決まりましたが、助役、収入役が今いないということでございます。そういう中で、通常の場合であった場合には、14万650円が引き上がるというような説明でしたが、市長単独という状況の中で実額は幾ら引き上がるのか、ご説明をいただきたいと思います。

○議長（青木一夫君） 総務部長。

○総務部長（大森 勝君） 今回の市長につきましては現率が適応されるということで、通常の3割支給になります。そうしますと、それを0.3カ月分で積算しますと1万6,313円の増になるということでございます。

以上です。

○議長（青木一夫君） よろしいですか。

ほかに質疑はありませんか。



〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） 質疑がないようですので、議長において議事進行し、これで質疑を打ち切ることにご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） 異議なしと認めます。

よって、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。

35番平塚英教君。

〔35番 平塚英教君 登壇〕

○35番（平塚英教君） 議案第11号 那須烏山市長等給与の一部改正についての提案でございますが、先ほど市長が提案されましたように、今回の議案につきましては人事院勧告にもとづく改正である。さらに、市長につきましては0.3カ月分のものについて該当で、プラス0.05カ月引き上げるということで、総額では1万6,315円ということで極めて少額でありますので、これは認めてあげたいものであります。行政改革ということで市を挙げて進めようということでございますので、少額であってもこの辺を律するという事で市民にアピールすることによって、行政改革を進めるさまざまなアピールにつながるのではないかと私は思います。そういう点から、まことに申しわけありませんが、この点についても議員の期末手当同様に律するという事で同意できないということを申し上げたいと思います。

○議長（青木一夫君） 次に、賛成討論の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） ほかに討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） ほかに討論がないので、これで討論を終結いたします。

採決いたします。日程第8 議案第11号について、原案のとおり可決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（青木一夫君） 挙手多数。

よって、議案第11号については、原案のとおり可決いたしました。

---

◎日程第9 議案第12号 那須烏山市職員給与条例の一部改正について

○議長（青木一夫君） 日程第9 議案第12号 那須烏山市職員給与条例の一部改正についてを議題といたします。

議案を朗読いたさせます。

〔書記 朗読〕

議案第12号

那須烏山市職員給与条例の一部改正について

那須烏山市職員給与条例の一部を改正する条例を別紙のとおり定める。

平成17年11月29日提出

那須烏山市長 大谷 範 雄

以上でございます。

○議長（青木一夫君） 本案について提案理由の説明を求めます。

市長大谷範雄君。

〔市長 大谷範雄君 登壇〕

○市長（大谷範雄君） ただいま上程となりました議案第12号 那須烏山市職員給与条例の一部改正につきまして、提案理由の説明を申し上げます。

本年度の人事院給与勧告を受けまして、国家公務員に準じまして本市職員の給与条例等を改正するものでございます。今回の給与改定の主な内容は、公務員と民間の給与比較におきまして基本給与をマイナス改定するとともに、配偶者にかかわる扶養手当の引き下げを行う一方、ボーナスにつきましては期末勤勉手当の支給率を0.05月分引き上げるというものでございます。

具体的には、一般職の基本給につきましては、12月支給分から平均0.3%の引き下げ、配偶者にかかる扶養手当は月1万3,500円から1万3,000円に減額改定をされます。また、期末勤勉手当につきましては、支給率が0.05月分引き上げられますが、4月から11月までの給料の官民格差を解消するため、4月の給与に格差率の0.35%を乗じて得た額に、4月から11月までの8カ月を乗じて得た額及び6月支給の期末勤勉手当の総額に同じく0.35%を乗じて得た額を、それぞれ12月支給の期末勤勉手当から減額して支給することとなります。

詳細につきましては、総務部長より説明申し上げますので、何とぞ内容をご審議の上、可決、ご決定を賜りますようお願いを申し上げまして、提案理由の説明といたします。

○議長（青木一夫君） 補足説明を求めます。

総務部長。

○総務部長（大森 勝君） 補足説明を申し上げたいと思いますので、2枚目の用紙をお開きいただきたいと存じます。

第8条第3項につきましては、配偶者扶養手当を月額1万3,500円から1万3,000円に改めるものでございます。これにつきましては月額500円の引き下げということになります。

次に、第17条の4第2項第1号につきましては、再任用職員以外の職員を定めたものでございます。同項第2号については、再任用職員の勤勉手当を各々定めたものでございますが、一般職員、特定幹部職員の12月に支給する勤勉手当をそれぞれ100分の5を引き上げる措置をいたしたものでございます。

次のページの行政職給料表につきましては、国家公務員の勧告に準じ定めたものでございまして、総体的には0.3%の減というふうになってまいります。

次の附則関係についてご説明を申し上げたいと思います。附則第1項につきましては、期末、勤勉手当の支給基準日が12月1日となっておりますことから、基準日前、基準日までに施行しなければならないというふうなことでございますので、11月に公布した場合については翌月の初日、すなわち12月1日施行といたしたものでございます。

飛ばさせていただきまして、次に第5項についてご説明を申し上げたいと思います。栃木県内での官民格差が0.35%あるということで、栃木県の人事院から勧告をされております。そういうことから、12月に支給する期末手当から既に支給いたしました給料、管理職手当、扶養手当、住居手当、それに6月期に支給いたしました期末、勤勉手当の総額に官民格差である0.35%を期末手当から控除するという規定でございます。これを職員1人当たり積算してみますと、1万2,188円減額をするということになってまいります。

今回の改正、総体的に見てみますと、職員1人当たり年間で1,427円の年収の減になるという措置でございます。

以上でございます。

○議長（青木一夫君） 以上で、市長の提案理由の説明及び補足説明が終わりました。

これより質疑に入ります。

35番平塚英教君。

○35番（平塚英教君） 議案第12号の市職員の給与の条例の一部改正でございますが、

先ほど市長のほうから所信表明がありまして、この中で行革に沿って人事評価制度の導入を進めていきたいというようなお話がございました。人事評価、確かに住民の側から見れば、それぞれ全体の奉仕者としての市職員にそういう要求があるということも承知をしておりますが、しかしながら、この運用が故意に間違っ使用されたりしないかなということを私は懸念をするわけございまして、県の職員等におきましても組合と理事者側とのこういう点についての激しいやりとりがされているようでございまして、客観的でまた正確な人事評価をどんなふうに進めるのかなということが求められるかと思います。市の執行部のイエスマン的な人事を評価するということでは行政の偏りになってしまうというふうに思います。

そういう点では、正確に行政の発展にこういう点で寄与するということを、総合的な点数制とか客観的な指標に基づいて、だれもが職員組合のほうでもこれならば理解できるというような人事評価が求められるのかなというふうに思うんですが、この辺については職員組合等との話し合い等が既にされたのかされないのか。その点も含めまして客観的で正確な人事評価をどう構築するのか、この点についてのお考えをお聞きしたいと思います。

○議長（青木一夫君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） 先ほど所信の中でも述べましたとおり、人事評価制度については導入をしてまいりたいと考えております。今、平塚議員もご指摘のとおり、公平、公正な人事評価をすることは当然でございますので、いろいろと公務員の人事評価に入り込めない。公務員制度改革がやはり国でもなかなか進まない理由は、官僚の抵抗もいろいろあることながら、生産組合あるいは生産会社というような観点からいたしまして、難しい評価があるということが行政体の中でも渦巻いておりますので、そのようなことになかなか踏み込めない。いわば人事評価は公務員の世界で聖域だというふうにも言われております。

しながら、私どもはやはり今住民の目線に立った、行革を主体にした行政体をスリム化するんだ。そういうことをやらなければならないということは、どうしても至上命令でございます。したがって、昇格、昇任あるいは期末、勤勉手当のあり方も一般的な年功序列オンリーということでは、私は住民への説明がつかないとむしろ思います。

したがって、これはいわゆる情実人事であるとか、あるいは偏ったそういった人事評価をするつもりは毛頭ございませんから、多面的にいろいろな角度から見て、しかも評価者も1人ということではなくて多数、この観点から見てまいりますと、極めて公平で公正な評価が出るものと私は確信をいたしておりますので、そういった意味から基本的に年功だけの問題でやる方と、あるいはただいけばいいという存在だけの方と、私は差があってしかるべきだなと考えておりますので、そのようなことからぜひご理解をいただいて、私は公平、公正な評価のために人事評価は導入していきたいと思っております。

なお、当然職員組合の皆様方のご理解を得る話し合いも、今後新市になりましては新たに構築をしてまいりたいと思いますので、その辺もご理解いただきたいと思います。

以上です。

○議長（青木一夫君） よろしいですか。

30番高田悦男君。

○30番（高田悦男君） ただいま上程中の第12号議案についてラスパイレス指数についてお聞きしたいと思います。今回の給与条例の改正によって、県内市町村においてどのような位置になるのか、もし資料的に持ち合わせていればお聞きしたいと思います。

○議長（青木一夫君） 総務部長。

○総務部長（大森 勝君） ラスパイレス指数関係につきましては、給与実態調査ということで国との比較をし、数値的にあらわしているものでございます。今回の改正に伴ってのラスパイレス指数等は今回出ておりません。平成17年度の4月現在のラスパイレス指数を申し上げます。旧町単位になりますので申しわけございませんけれども、南那須が94.8、烏山町が97.2ということになります。県内の順位づけですと、44市町村ありますけれども、南那須町が36位、烏山町が24位ということになります。これは一般行政職ということでご理解をいただきたいと思います。

以上です。

○議長（青木一夫君） 30番高田悦男君。

○30番（高田悦男君） ラスパイレス指数が示されましたが、この格差については今後どのようにして埋めていくのか。もし具体策があればお尋ねいたします。

○議長（青木一夫君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） このように94.8と97.2がある。おそらく合併前の両町のラスパイレス指数だというふうに思っておりますが、この構造はやはり逆三角形型の頭でっかちになっているところに起因しておりまして、合併をした那須烏山職員はいずれにしても那須烏山市の職員となりました。したがって、この格差是正についてはできるだけ早く、数年の間に格差是正を行ってまいりたいと考えております。

したがって、先ほど言及いたしました人事評価制度にも関連するんでございますが、やはり格差是正をするについても、各一人一人の職員の公平、公正な通信簿的なものは私は必要性は感じております。そういった格差是正をする一つの基準といいますか、そういったところも必要だと考えておりますので、やはりそういうことも人事評価制度を導入する理由の一つにございますので、ご理解いただきたいと思います。

この格差是正は当然必要でございますが、ちょっと時間がかかります。したがって、そ

の間をどうするかということになりますが、私は行政のスリム化、行財政改革を訴えておりますから、そういった中でやはり目指すは職員の少数精鋭主義を考えておりますので、やはり職員にもラスパイレス指数を上げたいというのが本音なんですね。職員に給料をたくさんあげたい。しかし職員の数を適正数にする必要がある。そういうことから、少数精鋭主義になって、県下でもラスパイレス指数を上位に上げていきたいと思っておりますので、その辺も含めて職員も切磋琢磨をして、そのような住民福祉の向上に、すばらしい職員に育ってもらいたいがための一つの政策であろう。このように理解をしていただきたいと思います。

以上です。

○議長（青木一夫君） 30番高田悦男君。

○30番（高田悦男君） 市長の意気込みを買いまして了解としたいと思います。

○議長（青木一夫君） 4番高津戸 茂君。

○4番（高津戸 茂君） 今の高田議員の質問と回答を聞いて私は疑問を感じたので、同じ内容になりますが質問させていただきます。

ラスパイレス指数自身が構造によるものだと話されましたが、この指数自身はそうではなくて、学歴とか勤続年数もすべて加味した中で計算されている数字なんですね、この数値というのは。ということは、先ほど総務部長から回答があったように、旧両町間で同じ尺度で見るときに格差があるんですね。これは今までできてきた格差だと思います。しかし、一緒になった中で同じ業務をやっているわけですね。これには、時間がかかれはかかるほど、職員同士の不平、不満が出てくるわけです。私は、これは政策できちっとラスパイレス指数を同じにしますということを挙げるべきではないかと思います。

先ほど言った人事評価とかそういうものとは別に、施策としてきちっとまず同じベースにつけない限り、時間がかかればかかるほど職員間の関係が逆にうまくいかない危険性もあるのではないかと。ですから、考え方のベースをもう少しきちっとして、できれば合併と同時に一緒にしてしまえばよかったんですけども、議員でも何でも一緒にしたんですから。できなければ、早い時期に、これは公平、公正という基本だったら早い時期にきちっとすべきである。それを踏まえた上で人事評価制度をしたり、そういうことが重要ではないかなと、私今聞いていてそう思いましたので、その辺の考えがあればお答えいただきたい。

○議長（青木一夫君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） 331名の職員でスタートいたしました那須烏山市でございまして、合併時以降もかなり混乱をするということを考えまして、分庁方式ということで今進めております。しかし、これはいつまでも永年続けるわけにはいきませんので、これも早い時期には本庁方式にもっていくということになるわけでございますので、そういうまでの過程は移行期間と

いうのはやはり大事だと思っております。

これで基本的に両町のラスパイレスの同率を早急にやるということになりますと、下げる、上げるという方向で進めていきますと、基本的に私は下げることはしたくないと考えておりますので、そうしますと、高いほうに上げるということになります。そういったしますと、一気にこれをやりますと、大変財政負担が伴ってくるということになります。したがって、今まで両町を歴史的に何十年もやってきたこの人事制度の中で、一気にこのラスパイレスを同率にするんだというような考え方は、今の合併時の人事制度につきましてはふさわしくないのかなと考えております。

さりとて、これは10年も20年も先だということを言っているものではございません。したがって、少なくとも3年から4年かけまして、その辺の調整はしてまいりたいということでございますので、ご理解いただきたいと思います。

○議長（青木一夫君） 4番高津戸 茂君。

○4番（高津戸 茂君） 済みません、また私の考え方との相違がありまして、高いほうに上げるべきであるとは私は一切思っておりません。両方の平均で総額が一緒であればいいのではないかな。その辺は総額が変わらなければだれでも納得するところではないかなと思うんですが、言っているのは同じ職場で数ポイントの差がある。金額にしたら非常に大きいんです。あと、県内を見ても足尾町とかはラスパイレス指数89%台なんですよ。今90%ぐらい行ったかもしれません。

先ほど順位を言いましたですね。旧南那須町が36位、旧烏山町が24位だと言っていましたけれども、これはその自治体の財政力によって決めるべきものであって、足尾さんの例ではないですけれども、今の数字、高いほうがいいのか、低いほうがいいのかという、高いほうに合わせなければというようなのは、これは役場職員自身が一番はっきりわかっているのではないかな。行政の財政力わかってますからね。ですから、そこで適正な数字にすべきではないかな。近隣の小川町さんも馬頭町さんも調べてもそうは高くありません。旧烏山町さんが高かったんですということだけであって、私は総額で、やはり職員の公平を保つ意味ではきちっとやるべきではないかなということで、先ほど質問したわけなんです、その辺の考えがありましたらお願いいたします。

○議長（青木一夫君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） 行政改革を徹底して断行するんだということから、相反するのではないかなというようなご意見もあるとは思いますが、私はこの職員の適正化計画というものを数値目標を掲げて毎年行ってまいりますということを申し上げました。したがって、その中でこの職員の人権費そのものの総体でもって減らしていきたいというような考え方がございま

す。その中で、一時的にラスパイレス指数を同率にさせるというようなことは、どうしても下げればいけないかということもございますが、双方の合併で何十年やってきた実績を踏まえた給与だったと思っております。したがって、それを引き継いだわけでございますから、今までのことはやはり継承しながら、これからの行革に取り組んでいくというスタンスでございます。

したがって、今までのやつを全く否定をして一時的に低いほうに下げたというようなことであれば、私は職員の意識どころか、組織の崩壊的なことも考えられますので、私は3年なり4年なり時間をおかせていただいて、適正化の人員配置、行政のスリム化、そして適正化を年次ごとにやることによって、総体的な人件費削減を毎年毎年減らしていくという考え方を持っておりますので、ぜひご理解をいただきたいと思っております。

以上です。

○議長（青木一夫君） 4番高津戸 茂君。

○4番（高津戸 茂君） 総体的人件費削減とはまた別な次元で、職員の公正な扱いを早くすべきであるという点で質問させていただいたわけです。ぜひその方向でやっていただきたいということで質問を終わります。

○議長（青木一夫君） 17番中山五男君。

○17番（中山五男君） 先ほどから烏山町と南那須町の職員の給与の格差の問題が議論されてますが、私はこのことにつきまして、ことしの6月の定例会の一般質問でも町長に質問申し上げ、答弁をいただいておりますが、私の記憶の範囲内では、もし烏山町の職員に合わせて南那須町の職員の給与を一気に引き上げたとすれば、約7,000万円の人件費の増額につながると、そのように申し上げたつもりであります。それに対しての町長の答弁もいただいておりますが、いずれにしても、この問題をここで議論してもなかなか議論し尽くせないと思っておりますので、今後の適当な市長の判断をお願いしたいと思います。

ところで今回の議案の件なんですが、これは人事院勧告に基づいたものでありますから、原案につきましては賛成するものであります。ただ、1点ここでお伺いしたいことがございます。議案書の後ろ側に別表として給与表が添付されております。職員の給与表は私の記憶の範囲内では、一般行政職の給与と技能労務職員の給与表1と2に区分されていたような記憶がありますが、今回示されているのは1枚だけなんですが、今は統一した給与表、これと理解してよろしいのか。そうしますと、今度は技能職も一般職も同じとなりますと、昇給の基準とかはどのような方法でこれから実施されるのか。それについて1点お伺いしたいと思います。

以上です。

○議長（青木一夫君） 総務部長大森 勝君。



○総務部長（大森 勝君） ご質問にお答えを申し上げたいと思います。行政職給料表と技能労務職の給料表1と2というふうに今までしていたと思います。今回の那須烏山市の関係につきましては、行政職給料表については条例案件としてございます。技能労務職関係につきましては規則で定めるということにしてございまして、この関係につきましては条例規則という関係で、今回技能労務職の給料表については提出をしていないということでご理解をいただきたいと思います。

以上です。

○議長（青木一夫君） 17番中山五男君。

○17番（中山五男君） そうしますと、技能労務職は今までどおりの給与表2というのがある、それを適用する。そうしますと、今回の給与改正で技能労務職の給与表も同じように改正をするのでしょうか。

○議長（青木一夫君） 総務部長。

○総務部長（大森 勝君） 今回技能労務職につきましては、規則ということで私どものほうで今回議会に承認されれば、技能労務職等についても規則の改正ということで、今回適用をしていきたいというふうに考えております。

○17番（中山五男君） 了解しました。

○総務部長（大森 勝君） ほかに質疑はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） 質疑がないようですので、議長において議事を進行し、これで質疑を打ち切ることにご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） 異議なしと認めます。

よって、質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

まず、本案に対する反対討論の発言を許します。

35番平塚英教君。

〔35番 平塚英教君 登壇〕

○35番（平塚英教君） 議案第12号 那須烏山市職員給与条例の一部改正について反対討論を申し上げます。

これにつきましては人事院勧告に伴う所要の改正でございしますが、この人事院勧告は公務員のスト権を与えないかわりに、その生活をきちんと保証するというで定められた制度であります。いわゆる財政諮問会議等から財界のほうから公務員は多過ぎるというような攻撃の

中で、その一環として公務員の給与を引き下げるような競い合うような動きの中で、これが提案されているというふうに私は考えます。

そういう中で、先ほど私ども議員の期末手当や市長等の期末手当の引き上げをしながら、職員の皆さんには年額給与を引き下げるということについては、あまりにもバランスを欠くということで、私はこれには同意できないということでございます。

○議長（青木一夫君） 次に、賛成討論の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） ほかに討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） ほかに討論がないので、これで討論を終結いたします。

採決いたします。日程第9議案第12号について、原案のとおり可決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（青木一夫君） 挙手多数と認めます。

よって、議案第12号については、原案のとおり可決いたしました。

ここで暫時休憩をいたします。

休憩 午前11時58分

再開 午後 1時00分

○議長（青木一夫君） 休憩前に引き続き会議を開きます。

お諮りいたします。日程第10 議案第1号から日程第18 議案第9号までの会計予算につきましては、市長選出に伴い本予算を編成したもので、平成18年3月までの6カ月間の経費を計上した予算であります。つきましては、会計予算9議案を一括して議題とし、提案理由の説明後総括質疑に入り、質疑後各議案ごとに討論を行い、議事を進めることにいたしたいと思ひます。ご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） 異議なしと認めます。

---

◎日程第10 議案第1号 平成17年度那須烏山市一般会計予算について

◎日程第11 議案第2号 平成17年度那須烏山市国民健康保険特別会計予算について

- ◎日程第12 議案第3号 平成17年度那須烏山市熊田診療所特別会計予算について
- ◎日程第13 議案第4号 平成17年度那須烏山市老人保健特別会計予算について
- ◎日程第14 議案第5号 平成17年度那須烏山市介護保険特別会計予算について
- ◎日程第15 議案第6号 平成17年度那須烏山市農業集落排水事業特別会計予算について
- ◎日程第16 議案第7号 平成17年度那須烏山市下水道事業特別会計予算について
- ◎日程第17 議案第8号 平成17年度那須烏山市簡易水道事業特別会計予算について
- ◎日程第18 議案第9号 平成17年度那須烏山市水道事業会計予算について

○議長（青木一夫君） したがって、議案第1号 平成17年度那須烏山市一般会計から議案第9号 平成17年度那須烏山市水道事業会計予算までの9議案を一括して議題といたします。議案を朗読いたさせます。

〔書記 朗読〕

1 ページをお開きください。

議案第1号

平成17年度那須烏山市一般会計予算

平成17年度那須烏山市の一般会計の予算は、次に定めるところによる。

（歳入歳出予算）

第1条 歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ5,932,500千円と定める。

2 歳入歳出予算の款、項の区分及び当該区分ごとの金額は、「第1表歳入歳出予算」による。

（債務負担行為）

第2条 地方自治法（昭和22年法律第67号）第214条の規定により債務を負担することができる事項、期間及び限度額は、「第2表債務負担行為」による。

（地 方 債）

第3条 地方自治法第230条第1項の規定により起こすことができる地方債の起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、「第3表地方債」による。

(一時借入金)

第4条 地方自治法第235条の3第2項の規定による一時借入金の借入れの最高額は、600,000千円と定める。

(歳出予算の流用)

第5条 地方自治法第220条第2項ただし書の規定により歳出予算の各項の経費の金額を流用することができる場合は、次のとおりと定める。

(1) 各項に計上した給料、職員手当及び共済費（賃金に係る共済費を除く。）に係る予算額に過不足を生じた場合における同一款内でのこれらの経費の各項の間の流用。

平成17年11月29日 提出

栃木県那須烏山市長 大谷 範雄

81ページをお開きください。

議案第2号

平成17年度那須烏山市国民健康保険特別会計予算

平成17年度那須烏山市の国民健康保険特別会計の予算は、次に定めるところによる。

(歳入歳出予算)

第1条 事業勘定の歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ1,783,200千円と定め、診療施設勘定の歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ56,400千円と定める。

2 事業勘定及び診療施設勘定の歳入歳出予算の款、項の区分及び当該区分ごとの金額は、「第1表歳入歳出予算」による。

(一時借入金)

第2条 地方自治法（昭和22年法律第67号）第235条の3第2項の規定による一時借入金の借入れの最高額は、事業勘定50,000千円、診療施設勘定20,000円と定める。

(歳出予算の流用)

第3条 地方自治法第220条第2項ただし書の規定により歳出予算の各項の経費の金額を流

用することができる場合は、次のとおりと定める。

(1) 保険給付費の各項に計上した予算額に過不足を生じた場合における同一款内でのこれらの経費の各項の間の流用。

平成17年11月29日 提出

栃木県那須烏山市長 大 谷 範 雄

117ページをお開きください。

議案第3号

平成17年度那須烏山市熊田診療所特別会計予算

平成17年度那須烏山市の熊田診療所特別会計の予算は、次に定めるところによる。

(歳入歳出予算)

第1条 歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ120,300千円と定める。

2 歳入歳出予算の款、項の区分及び当該区分ごとの金額は、「第1表歳入歳出予算」による。

(一時借入金)

第2条 地方自治法(昭和22年法律第67号)第235条の3第2項の規定による一時借入金の借入れの最高額は、10,000千円と定める。

平成17年11月29日 提出

栃木県那須烏山市長 大 谷 範 雄

127ページをお開きください。

議案第4号

平成17年度那須烏山市老人保健特別会計予算

平成17年度那須烏山市の老人保健特別会計の予算は、次に定めるところによる。

(歳入歳出予算)

第1条 歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ1,691,600千円と定る。

2 歳入歳出予算の款、項の区分及び当該区分ごとの金額は、「第1表歳入歳出予算」による。

(一時借入金)

第2条 地方自治法(昭和22年法律第67号)第235条の3第2項の規定による一時借入金の借入れの最高額は、30,000千円と定める。

平成17年11月29日 提出

栃木県那須烏山市長 大 谷 範 雄

137ページをお開きください。

議案第5号

平成17年度那須烏山市介護保険特別会計予算

平成17年度那須烏山市の介護保険特別会計の予算は、次に定めるところによる。

(歳入歳出予算)

第1条 歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ1,162,000千円と定める。

2 歳入歳出予算の款、項の区分及び当該区分ごとの金額は、「第1表歳入歳出予算」による。

(一時借入金)

第2条 地方自治法(昭和22年法律第67号)第235条の3第2項の規定による一時借入金の借入れの最高額は、50,000千円と定める。

(歳出予算の流用)

第3条 地方自治法第220条第2項ただし書の規定により歳出予算の各項の経費の金額を流用することができる場合は、次のとおりと定める。

(1) 保険給付費の各項に計上した予算額に過不足を生じた場合における同一款内でのこれらの経費の各項の間の流用。

平成17年11月29日 提出

栃木県那須烏山市長 大 谷 範 雄

155ページをお開きください。

議案第6号

平成17年度那須烏山市農業集落排水事業特別会計予算

平成17年度那須烏山市の農業集落排水事業特別会計の予算は、次に定めるところによる。

(歳入歳出予算)

第1条 歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ37,600千円と定める。

2 歳入歳出予算の款、項の区分及び当該区分ごとの金額は、「第1表歳入歳出予算」による。

(地 方 債)

第2条 地方自治法(昭和22年法律第67号)第230条第1項の規定により起こすことができる地方債の起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、「第2表地方債」による。

(一時借入金)

第3条 地方自治法第235条の3第2項の規定による一時借入金の借入れの最高額は、30,000円と定める。

平成17年11月29日 提出

栃木県那須烏山市長 大 谷 範 雄

167ページをお開きください。

議案第7号

平成17年度那須烏山市下水道事業特別会計予算

平成17年度那須烏山市の下水道事業特別会計の予算は、次に定めるところによる。

(歳入歳出予算)

第1条 歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ277,500千円と定める。

2 歳入歳出予算の款、項の区分及び当該区分ごとの金額は、「第1表歳入歳出予算」による。

(債務負担行為)

第2条 地方自治法（昭和22年法律第67号）第214条の規定により債務を負担することができる事項、期間及び限度額は、「第2表債務負担行為」による。

(地 方 債)

第3条 地方自治法第230条第1項の規定により起こすことができる地方債の起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、「第3表地方債」による。

(一時借入金)

第4条 地方自治法第235条の3第2項の規定による一時借入金の借入れの最高額は、50,000千円と定める。

平成17年11月29日 提出

栃木県那須烏山市長 大 谷 範 雄

185ページをお開きください。

議案第8号

平成17年度那須烏山市簡易水道事業特別会計予算

平成17年度那須烏山市の簡易水道事業特別会計の予算は、次に定めるところによる。

(歳入歳出予算)

第1条 歳入歳出予算の総額は、歳入歳出それぞれ141,000千円と定める。

2 歳入歳出予算の款、項の区分及び当該区分ごとの金額は、「第1表歳入歳出予算」による。

(地 方 債)

第2条 地方自治法（昭和22年法律第67号）第230条第1項の規定により起こすことができる地方債の起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、「第2表地方債」による。

(一時借入金)



第3条 地方自治法第235条の3第2項の規定による一時借入金の借入れの最高額は、30,000千円と定める。

平成17年11月29日 提出

栃木県那須烏山市長 大谷 範雄

197ページをお開きください。

議案第9号

平成17年度那須烏山市水道事業会計予算

(総則)

第1条 平成17年度那須烏山市の水道事業会計予算は、次に定めるところによる。

(業務の予定量)

第2条 業務の予定量は、次のとおりとする。

(1) 給水戸数	7,720	戸
(2) 年間総給水量	1,213,000	m <sup>3</sup>
(3) 一日平均給水量	6,663	m <sup>3</sup>
(4) 主要な建設改良事業(上水道整備費)	112,910	千円

(収益的収入及び支出)

第3条 収益的収入及び支出の予定額は、次のとおりと定める。

収 入		
第1款 水道事業収益	310,647	千円
第1項 営業収益	282,684	千円
第2項 営業外収益	27,962	千円
第3項 特別利益	1	千円
支 出		
第1款 水道事業費用	336,543	千円
第1項 営業費用	234,280	千円

第2項 営業外費用 100,963 千円

第3項 特別損失 300 千円

第4項 予備費 1,000 千円

(資本的収入及び支出)

第4条 資本的収入及び支出の予定額は、次のとおりと定める。(資本的収入額が資本的支出額に対して不足する額98,097千円は、当年度分損益勘定留保資金92,483千円、当年度分消費税及び地方消費税資本的収支調整額5,614千円で補てんするものとする。)

収 入

第1款 資本的収入 132,094 千円

第1項 企業債 75,000 千円

第2項 出資金 41,474 千円

第3項 負担金 6,620 千円

第4項 国庫補助金 9,000 千円

支 出

第1款 資本的支出 230,191 千円

第1項 建設改良費 119,422 千円

第2項 企業債償還金 109,769 千円

第3項 予備費 1,000 千円

(企業債)

第5条 起債の目的、限度額、起債の方法、利率及び償還の方法は、次のとおりと定める。

起債の目的	限度額	起債の方法	利 率	償 還 の 方 法
老朽管更新事業	40,000千円	普通貸付	5.0%以内。ただし、利率見直し方式を選出した場合、5.0%を上回った際には、当該見直しを行った利率。	政府資金又は公営企業金融公庫資金については、その融資条件により、銀行その他の場合にはその債権者と協議するものによる。 ただし、市財政の都合により、据置期間及び償還期間を短縮し、又は、繰上償還もしくは、低利に借りかえることができる。
排水管布設事業	35,000	同 上	同 上	同 上
計	75,000			

(一時借入金)

第6条 一時借入金の限度額は、100,000千円と定める。

(議会の議決を経なければ流用することのできない経費)

第7条 次に掲げる経費については、その経費の金額を、それ以外の経費の金額に流用し、又はそれ以外の経費をその経過の金額に流用する場合は、議会の議決を経なければならない。

(1) 職員給与費 27,359 千円

(2) 交 際 費 30 千円

(たな卸資産購入限度額)

第8条 たな卸資産の購入限度額は、4,664千円と定める。

平成17年11月29日 提出

栃木県那須烏山市長 大 谷 範 雄

以上でございます。

○議長(青木一夫君) 市長の提案理由の説明を求めます。

市長大谷範雄君。

〔市長 大谷範雄君 登壇〕

○市長(大谷範雄君) ただいま一括上程となりました議案第1号から議案第9号までの提案理由の説明を申し上げます。

まず、平成17年度那須烏山市一般会計予算についてであります。概要をご説明いたします。今般の予算につきましては、新市発足後10月1日からのつなぎ予算でもある暫定予算にかわりまして、市長選出に伴いまして本予算を編成したものであります。期間は平成18年3月までの6カ月間の経費について計上したものであります。これによりまして、本予算の議決後、暫定予算は本予算に吸収されることになり、暫定予算の執行額は本予算の執行額となります。

南那須町と烏山町が合併をし、那須烏山市が誕生いたしました。歳入の根幹であります市税収入の伸びが期待できず、また三位一体の改革に伴う国庫支出金や地方交付税の削減によりまして、歳入の確保が厳しい状況にあります。一方、歳出面におきましては、合併経費に加え少子高齢化に伴う扶助費や繰出金の増加、さらには公債費の増嵩などにより、引き続き厳しい財政運営を強いられております。

しかしながら、住民に身近な行政サービスを提供する市の役割はますます重要となりまして、保健、福祉、医療への対応、さらには地域経済の活性化対策など、新たな課題にも積極的に取り組むことが求められております。

このようなことから、那須烏山市の平成17年度本予算は、2町合併後の融和に最大限配慮いたし、現下の緊要な課題に的確に対処いたし、一層の市民福祉の向上に徹した予算編成を行ったところであります。

予算の概要でございますが、平成17年度那須烏山市一般会計予算額は59億3,250万円で、主に次の経費を計上いたしました。①旧町予算の継承に係るもの。②合併に伴って新たに必要となった経費。③緊急に必要な経費、④安全対策に係る経費などであります。

歳入につきましては、市税は10月以降の半年分の収入見込額を計上し、地方交付税は合併に伴う特別交付税の加算分を見込むとともに、市債は合併推進債及び合併特例債を計上しました。歳出につきましては、合併経費を中心に、人事異動及び人事院勧告に伴う人件費の精査、道路維持整備費、中学校統合事業費、その他アスベスト分析調査費を予算措置いたしました。

なお、歳入歳出予算のうち、本予算において新たに追加されました主な内容は、次のとおりであります。まず、歳入でございます。市税7億5,838万2,000円、地方譲与税1億7,404万3,000円、地方消費税交付金1億2,000万円、地方交付税15億8,533万2,000円でございます。うち普通交付税は8億6,533万2,000円、特別交付税は7億2,000万円となっております。諸収入うち旧南那須町及び旧烏山町歳計剰余金であります。これは合計8億8,405万円であります。市債は8億8,640万円、うち合併推進債が1億1,140万円、合併特例債が9,650万円でございます。うち臨時財政対策債4億6,590万円となっております。

歳出でございます。総務費でございます。まず、庁舎整備費でございます。南那須庁舎屋根防水改修工事に1,410万円、烏山庁舎会議室改修工事に400万円であります。

民生費は特別障害者手当等支給事業費208万4,000円、生活保護扶助費1億7,824万7,000円であります。

衛生費は水道事業繰出金等6,166万7,000円でございます。

農林水産業費であります。県単独土地改良事業費、これは塩那台地土地改良区災害復旧補助金357万7,000円、市単独土地改良事業補助金（農道、用水路、排水路）等の整備補助であります145万円。

次は土木費でございます。道路台帳統合化業務委託料693万円、道路維持修繕料2,400万円、除雪凍結対策費700万円、道路維持整備費（舗装、側溝、路肩修繕工事）など1,

925万円。

次は教育費であります。中学校統合事業費460万円、烏山中学校スクールバス購入費2台分963万9,000円となっております。そのほかアスベスト分析調査費、これは庁舎、市営住宅、小・中学校調理場等で56万5,000円の調査費を充てております。幼稚園及び保育園ブランコ安全対策費で74万円。

さらに債務負担行為は予算書添付の調書のとおりでございまして、39件でございます。

次は地方債であります。将来の財政運営に配慮いたしまして、合併特例債、合併推進債、辺地対策事業債など有利な起債を活用いたしております。これは9事業ございまして、8億8,640万円でございます。

一時借入金でございますが、一時借入金の借入れの最高額は6億円とさせていただきました。

以上が、平成17年度那須烏山市一般会計本予算の概要でございます。

次は議案第2号 平成17年度那須烏山市国民健康保険特別会計予算についてでございます。本会計は、事業勘定と診療施設勘定の2つの勘定がございますので、事業勘定からのご説明をまず申し上げます。

予算総額は17億8,320万円でございます。歳出の主なものは、合併後半年間の保険給付見込額及び老人保健拠出金であります。これらの財源は、保険税と国庫負担金が主なものでありますが、保険税につきましては合併後の納期にかかるものについては、その予定額を計上いたし、国庫負担金につきましては合併後に交付される見込額を計上いたし、不足額につきましては財政調整基金繰入金をもって措置いたしました。

続きまして、診療施設勘定でございますが、予算総額は5,640万円であります。歳出の主なものは、総務費と医業費で合併後半年間にかかる管理費及び医薬材料費を計上いたしております。これらの財源は、診療収入及び合併前の歳計剰余金をもって措置をいたしました。

なお、本案は過日の国民健康保険運営協議会に諮問いたしまして、原案のと通りの答申を得ておりますことをご報告申し上げます。

次は議案第3号 平成17年度那須烏山市熊田診療所特別会計予算についてであります。本会計、予算総額1億2,030万円でございます。歳出の主なものは、施設整備費でありまして合併前から継続しております診療所新築工事で合併後にかかる諸費用でございます。この財源につきましては、国庫補助金、一般会計繰入金及び合併前の歳計剰余金をもって措置いたしました。このほか、診療所運営に係る諸費用につきましては、診療収入をもって措置いたしました。

議案第4号は平成17年度那須烏山市老人保健特別会計予算についてであります。予算総額は、16億9,160万円でございます。歳出の主なものは合併後半年間の医療諸費見込額で

ありまして、これらの財源につきましては、支払い基金交付金、国県支出金及び一般会計繰入金等で措置いたしました。

議案第5号は平成17年度那須烏山市介護保険特別会計予算についてであります。介護保険特別会計予算につきましては、歳入及び歳出総額とも11億6,200万円を計上いたしました。初めに、歳入の主なものにつきましては、保険料、介護給付費、国県負担金、支払い基金交付金で合併後6カ月間に収納が見込まれるものを計上いたしました。

また、歳出の主なものにつきましては、旧町で執行いたしました保険給付等で合併後に支出されるものや、介護保険法制度改正により10月制度改正により今後支出が見込まれる特定入所者サービス給付費等について措置をしたほか、契約等通常業務に必要な経費を計上いたしております。

議案第6号であります。平成17年度那須烏山市農業集落排水事業特別会計予算についてでございます。興野地区の農業集落排水事業につきましては平成12年1月に供用開始し、以来、施設の維持管理及び供用率の向上に取り組んでまいりました。現在、77%の世帯で使用しているところであります。

平成17年度の当初予算につきましてはご承認いただきました暫定予算を踏襲いたしまして、総額3,760万円を計上いたしました。歳出の主なものは、建設事業に係る地方債の元利償還金、県の河川改修による排水管渠の布設替工事及び水処理センター等施設の維持管理であります。

これらの財源につきましては、施設使用料、市債、補償費及び一般会計繰入金等をもって措置をいたしております。

議案第7号 平成17年度那須烏山市下水道事業特別会計予算についてであります。烏山処理区における整備状況でございますが、全体計画区域260ヘクタールのうち、認可区域99ヘクタールの整備を進めているところであります。平成17年3月末の整備面積は約60ヘクタールで、全体計画に対する整備率は23%であります。この水洗化率は22.3%でございます。年間汚水処理量は5万168立方メートルであります。

また、南那須処理区におきましては、全体計画区域76ヘクタールのうち、平成17年3月末までに認可区域61ヘクタールの整備を完了いたしております。水洗化率は74.9%で、年間汚水処理量は17万6,631立方メートルであります。

平成17年度の当初予算につきましては、ご承認いただきました暫定予算を踏襲いたしまして、総額2億7,750万円を計上いたしました。歳出の主なものは、水処理センターの維持管理費、管渠工事費及び建設事業に係る地方債の元利償還金であります。これらの財源につきましては、施設使用料、汚水処理施設整備交付金、市債及び一般会計繰入金等をもって措置

をいたしました。

議案第8号 平成17年度那須烏山市簡易水道事業特別会計予算についてであります。水道水は私たちが日常生活を営む上で欠かすことのできない大切なものであります。簡易水道、特に中山間地域を対象に給水をしておりますので、住民の生活用水の安定供給のため、施設の維持管理に万全を期してまいり所存であります。

本会計の予算は、平成17年10月12日にご可決いただきました暫定予算に基づきまして、平成17年10月から平成18年3月までの予算といたしまして総額1億4,100万円でございます。歳入の主なものは、水道使用料、施設災害共済金、烏山町歳計剰余金、一般会計繰入金、市債であります。歳出の主なものは、職員人件費、簡易水道施設維持管理費、水道施設整備費、市債元利償還金でございます。

議案第9号は平成17年度那須烏山市水道事業会計予算についてであります。水道事業につきましては、公営企業経営の基本原則であります「経済的運営と公共の福祉の増進」に心がけ、多様化する市民の要望に対応しながら、良質で安全な水道水を安定的に供給し、信頼される水道事業経営を構築していくことが肝要であると存じております。

事業経営におきましては、効率のよい事業計画と経費の節減、サービスの向上など一層企業努力を図るとともに、安定供給のため維持管理に万全を期し、施設の整備等に努めているところでございます。

今回の予算は、平成17年10月12日にご可決をいただきました暫定予算に基づきまして、平成17年10月から平成18年3月までの企業活動に伴い発生する収益、費用について計上したものであります。

収益的収入の主なものは、水道料金、他会計繰入金、施設災害共済金等でありまして、3億1,064万7,000円を計上いたしました。

収益的支出の主なものは、原水及び浄水費、配水及び給水費、総係費、減価償却費、支払利息等で3億3,654万3,000円でございます。

投資的経費であります資本的収入の主なものは、企業債、他会計出資金、負担金、国庫補助金等で、1億3,209万4,000円であります。

資本的支出の主なものは、老朽化いたしました既設配水管の布設替の建設改良費、企業債償還元金に係る資本的支出で、2億3,019万1,000円を計上いたしております。

以上、議案第1号から議案第9号まで一括提案理由の説明を申し上げます。なお、款、項、目、節にかかわります歳入歳出予算は、予算書及び予算に関する説明書のとおりでございます。何とぞ慎重ご審議の上、可決、決定をくださいますようお願い申し上げまして、提案理由の説明とさせていただきます。

○議長（青木一夫君） これより質疑を行います。

22番樋山隆四郎君。

○22番（樋山隆四郎君） ただいま上程中の第1号議案 一般会計予算についての質問をいたします。那須烏山市になりまして、予算の中でわからない部分がありますので、質問が多岐にわたるかとは思いますが、ご了承のほどお願いいたします。

まず最初に15ページ、市税、固定資産税。この中で、国有資産等所在市町村納付金というものがありますが、この施設はどういう施設なのか。それと、同じ15ページの市税で、入湯税の滞納繰り越し分が170万円あるわけですね。現年課税分が272万2,000円ということですが、滞納分がちょっと多いので、この辺の理由の説明をお願いいたします。

それと、次の17ページ、地方交付税、この中の特別交付税7億2,000万円、この主な事業の説明をお願いいたします。

次に18ページ、商工使用料のやまびこの湯使用料、これはこのほかに雑入で使用料が619万5,000円、雑入で649万8,000円、そして運営費で3,393万円というふうに、やまびこの湯というのは予算の中ではあるんですが、これは1,000万円近くの大変な赤字になっています。こういうことに関してどういうふうな見解を持つのか。

23ページの農林水産業費の中の畜産基盤再編総合整備事業ということがありますが、どういう事業なのか。

28ページの市債、辺地対策事業債ということですが8,000万円。この事業内容はどういうものなのか。

31ページ、企画費、行政マネジメントシステム事業費、この内容です。金額は小さいんですが、内容です。

32ページ、自治振興費、自治振興費ということで1,996万9,000円というのが出ていますが、これは報酬は581万5,000円ということですが、自治振興費にしましてはちょっと難しい問題がありました。それも烏山町で振興補助金という問題は違法性があるということで監査請求があったものでありますから、こういうものに抵触するのかな。この辺の説明をお願いいたします。

42ページ、環境衛生費、浄化槽設置事業費ということで3,988万4,000円、これは浄化槽何基分なのか。

47ページ、林業振興費、森林整備地域活動支援交付金事業というものが951万2,000円あるんですが、この内容がわからないので説明をお願いします。

最後になりますが53ページ、サタデースクール事業費263万円とありますが、これは人件費なのか。あるいは備品とか教材を買うお金なのか、説明をお願いいたします。



以上でございます。

○議長（青木一夫君） 総務部長大森 勝君。

○総務部長（大森 勝君） 総務部関係についてお答えを申し上げたいと思います。15ページの国有資産等所在市町村納付金関係の内容ですけれども、これにつきましては栃木県営林局、職業安定局が該当になってきております。

次に、入湯税の滞納関係ですけれども、入湯税につきましては、特別徴収ということで入湯税を徴収することになっております。現在該当するところが3事業所等がございまして、そこが現在若干税等がおくれているような状況がございまして、そのほかに実質的には破産した企業もあるということでご理解をいただきたいと思います。

特別交付税関係の計上等につきましては、今回ご指摘のように特別交付税で7億2,000万円計上してございます。これにつきましては、合併に伴う特別交付税措置が3カ年で6億8,000万円措置をされまして、今回そのうち2分の1、50%が初年度に交付をされるということになっておりまして、それが3億4,000万円今回計上しております。そのほかに今まで2町等で交付されておりました特別交付税、通常4億円を超えていたわけですけれども、今回3億8,000万円計上させていただいております。

辺地債関係につきましては、現在南那須で事業等を行っておりまして、田野倉曲畑線が1カ所でございます。そのほかに辺地債事業は曲田逆川線の2つの道路関係に充当しております。

自治振興費関係につきましては、現在法に抵触しているかどうかという問題でございしますが、これらにつきましては烏山の訴訟等については、税の上乗せ分についての違法性を問われているところでございまして、今回についてはすべてそういうものを排除してございしますので、違法性等はないものと私は考えております。

以上です。

○議長（青木一夫君） 経済環境部長佐藤和夫君。

○経済環境部長（佐藤和夫君） まず、やまびこの湯について申し上げたいと思います。やまびこの湯は昨年の入館が9万9,250人ということで、1カ月当たり約8,000人でございます。今年になりまして、6月にポンプの事故が起きまして、月平均6,294人ということで月1,800人ほど減少しております。したがって、昨年收入が5,600万円、支出が5,100万円、おおむね500万円の黒字をいただいていたわけですが、ことしの6月からそういう状況になりましてマイナスになってきております。状況は月平均費用が410万円、収入が220万円ですから、大体190万円の毎月の減額という状況でございまして。

ご質問の歳入のほうのやまびこの湯使用料619万5,000円につきましては、10月から3月までの利用収入を見ております。次に、雑入のほうの694万8,000円につきまし

ては、食堂の売り上げと自販機等でおおむね月100万円でございまして、690万円を計上させていただいている状況でございます。

次に、畜産関係の1億何がしかの事業のご質問でございますが、これは事業主体は農業振興公社でございます。新市で主に南那須の方が加入しているわけでございますが、7名加入しておりまして、平成17年度から平成20年度まで4カ年計画でおおむね8億円の事業を計画しております。どんなものかと申しますと、草地の造成、堆肥舎あるいは畜産の基地、ふん尿処理施設、そういうのを合わせまして8億の事業費でございまして、平成17年から平成20年まで、補助率は草地が75%、施設が70%でございまして、今年度1億5,000万円の事業でございまして、75%及び70%ですので1億ちょっとの事業費ということでございます。

森林の951万2,000円でございまして、これにつきましては南那須町と烏山町、旧町でございますが、南那須が森林240.47ヘクタール、烏山が671.5ヘクタール、合わせまして911ヘクタールが事業費でございまして、那須南森林組合におきまして1団地で30ヘクタールを設定いたしまして、樹齢35年以下の杉、ヒノキなどを対象にしまして林の境界の確認、下刈り、歩道の設置などを森林組合のほうで事業をやっていただくために、1ヘクタール1万円でございまして、補助交付金、県と町の交付金ということで県が75%、市が25%、合わせまして911万9,700円を補助するものでございまして、差額については事務費でございます。

以上です。

○議長（青木一夫君） 建設部長池尻昭一君。

○建設部長（池尻昭一君） 合併浄化槽の設置基数についてのご質問についてお答え申し上げます。5人槽について22基、7人槽について73基、10人槽について4基、計99基を予定しているところでございます。

以上でございます。

○議長（青木一夫君） 教育次長堀江一慰君。

○教育次長（堀江一慰君） サタデースクール関係につきましてご説明をしたいと思います。総額263万円の予算措置でございまして、後半期といいますか9月から2月、これは小学校の関係です。中学校が10月から2月というようなことで、これから支出されるものでございまして、議員ご指摘のように人件費か教材費かというご指摘でございまして、そのうち231万円が講師の委託ということで民間の塾に講師派遣をしている。残りの30万円ほどが教材費関係。学校で行っておりますので、土曜日でございますので学校の先生方にかぎの開閉、そういうものの費用が総額で263万円というふうにご理解いただきたいと思います。なお、荒川小、江川小6年生、下江川中の3年生ということで現在実施している事業でございます。

以上です。

○議長（青木一夫君） 22番樋山隆四郎君。

○22番（樋山隆四郎君） 今、概略説明をいただきましたが、了解できる部分と、なかなかまだ了解の至らない部分がありますが、その中でやまびこの湯は完全に赤字というのがわかっているわけでありますが、こういう赤字の資産に関しまして市長はどういうふうな考えをお持ちなのか。これがまず第1点。

畜産基盤再編総合整備事業費ということで補助率が70%、75%、これは非常にいい補助率であります。それ以外のものは一般会計の中から繰り出すのかどうか。あるいは自己負担なのか。

辺地対策事業債というのは、地方道のこれに対する事業債を起債したという理解でよろしいのか。

行政マネジメントシステムに関しては、ちょっと答弁がなかったんですが。金額は10万円と小さいんですが、この問題はどのような内容なのかということであります。

以上です。

○議長（青木一夫君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） やまびこの湯のことにつきましてお尋ねがございまして、今後の政策等にも大きく影響いたしますことからお答えを申し上げますが、今、経済環境部長のほうから答弁がありましたとおり、温泉の機能を今失っておりまして、そういったことから温泉の入湯客が激減しております。したがって、その結果、現在のところは赤字予算を余儀なくされているという状況下でございます。しかしながら、やまびこの湯に対する存在といいますか、あるいは価値観は大変高いものと思っております。住民の皆さん、あるいは利用客の皆さんがあそこで直売所なども併設をしているわけでございますけれども、住民の皆さんに聞くと、やはりこれはいずれ復活をしてほしいという強い要望も実は聞いております。

そのようなことから、今後のあり方についてどのような方向に持っていくか。今子細に検討をしているところであります。今のままでいいというふうには考えておりませんので、今後その状況をよく検証しながら、私は復活に向けた努力をしていきたいと思っております。

しかしながら、今回も、旧烏山町からのこの本予算策定のときに財源をつくるべきだというような事務局からの提案が実はあったわけでありまして。これはポンプの改修費でありました。これは恐らく2,000万円を超えていた、二千二、三百万円のことだったと思うんですが、そういった提案が実はあったわけでありまして。これは旧町からの継承事業ということであったわけでありまして、ちょっと先送りさせてほしかったのは、実はその源泉の問題がございました。今その状態のところから、源泉を持ってきている。そのポンプが故障、その修理費用を公

金で出すのはいかなものか。こういった理由でございまして、ちょっと私の判断で今ペンディングさせていただいているという状況でございます。

今後は温泉を復活しない限りは、やはりお客さんがまわらないことは当然でございますから、原則温泉の復活をどのようにしたらいいかということでもあります。ですから、今の温泉をそういった利権の部分、源泉がはっきりと明確に締結ができるというようなこと。それと、新たに温泉を掘った場合の経費がどういうものかということですね。そういうことであるとか、あるいは全く温泉ということから離れまして、薬湯の湯ほかいろいろな方法があるという意見もあるので、その辺のことも勘案しながら、これからの方向性を決めていきたいと思っております。

したがって、今即刻赤字だからあれを廃止するという考えは持ち合わせておりませんので、当面6月にそのような状況になって、まだ4カ月、5カ月ということでございますから、さらにそれは今までの経過、そういった権利のことの明確なことも検証をしつつ、今後の対応を早急に決めていきたいと考えておりますので、やまびこの湯についてはぜひご理解をいただきたいと思います。

畜産基盤整備につきましては、市といたしましてはトンネル財政でございまして、全く一般財源からの繰り出しはございません。ご理解いただきたいと思います。

辺地対策債、これも南那須町の道路の継続事業でございます。先ほど申し上げましたとおり、通称万行のところの整備がこととして終わりました。その区域でございますのと、今継続といたしております田野倉曲畑線の継続事業、これは拡幅、道路整備の事業でございまして、辺地債、ご案内のように起債100%、元利返済が100%返済ですね、これは戻る。これは合併特例債よりも有利な事業でございます。済みません、間違えました。交付税80%でございます。合併特例債は70%でございますから、それよりも有利だということで検証いたしておりますので、ご理解いただきたい。そのところまで私のほうから答弁をさせていただきます。

以上です。

○議長（青木一夫君） 総務部長大森 勝君。

○総務部長（大森 勝君） マネジメント関係の支出ですけれども、肩書が非常にいいと書いておりますけれども、これから行政評価を行っていくという考え方がございまして、職員の勉強するための図書費を計上したものでございます。

○議長（青木一夫君） 22番樋山隆四郎君。

○22番（樋山隆四郎君） 大体理解ができました。ただ、今、市長の答弁がありましたやまびこの湯に関しては、私はまた全然違う考えを持っているわけであります。やまびこの湯の源泉、これから調査をしてお湯がもらえる。あるいはもらえないと、いろいろやるというのはもう烏山町も十分にやってきたわけであります。ある1企業の問題でありますから、このやま

びこの湯とは切り離して考えますが、あそこに大きな問題があるわけであります。

ですから、私は住民の人があの施設を必要とするという市長からの答弁がありました。あそこに来ている入湯客の7割は町外であるという結果が出ているわけであります。ですから、ああいう資産に関しましてはもう整理する時期に来ている。あの問題に関しては廃止をしたいというぐらいの意気込みを持ってやらないと、これから行革は全く進まない。再生すれば何とかかなかと、温泉は各市町村どこにでもあります。あれが特別いいというわけではありません。ですから、私はあの問題に関してこれから行政のスリム化というところに向かっていくわけでありますから、ぜひとも市長の考えをこれからどういうふうに整理をしていくのかわかりませんが、私としてはもう廃止をするべきだというふうに考えております。

○議長（青木一夫君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） 確かに今、樋山議員の言われることも正論の一つだろうと思います。源泉の利権がどのようになっているかをはっきり検証しない限りは、あそこに一銭もお金をつぎ込む考えを持っておりません。ただ、そのように、今住民の声を聞きますと、確かに直売所も併設をしたりしているということになると、これはほかからの交流人口がふえていることは間違いない事実でございます。

したがって、そのような総合的なまちづくりの中で解消も含めた、あるいは存続も含めたことを真剣に早急に検討してまいりますので、きょうのご質問の中では結論めいたことはお話をいたしません。住民の声では一部必要性を認める声も十分強いということも認識をいただくことと、まずは源泉の問題が明確化されていない。やはり今までの計画を踏まえた検証がまだ定かでないということから、ぜひ十分に真剣に検討させていただくことをお約束させていただきます。よろしくお願いいたします。

○22番（樋山隆四郎君） 了解。

○議長（青木一夫君） 17番中山五男君。

○17番（中山五男君） 今回の総体的な予算は、全部の予算9議案がありまして、116億4,400万円ほどになるわけなんです。これは平成17年度両町予算のうち9月末日まで、すなわち合併までに歳入歳出の済んだ分を差し引いた残りの額を基本的に計上されたものかどうか。これが1点です。

次に、この予算書の中に、合併後新たに見込まれる歳入歳出が随分含まれていると思います。主なものにつきましては先ほど大谷市長に説明をしていただきましたが、その説明についていけなかったものですから、再度ご説明をいただきたいと思います。

3点目を申し上げます。市税の滞納繰越額が15ページの歳入に載っておりますが、平成16年度の決算書によりますと、両町の滞納繰越額は合計で10億1,500万円ほどあるわ

けですが、そのうち今年度中に徴収が見込まれる額として合わせて1,187万5,000円を計上したものなのか。これが3点目です。

4点目を申し上げます。25ページに繰入金があります。18款1項1目1節の説明書きを見ますと、老人保健特別会計繰入金として3,736万5,000円がありますが、なぜこの特別会計から一般会計に繰り入れるのか。さらに、右のほうで今回老人保健のほうへ4,200万円ほど支出をしております。行ったり来たり、これは相殺できなかったのかあわせてお伺いします。

次に27ページをお開きいただきたいと思います。雑入の19款5項2目1節の説明書きの下から3番目に南那須町歳計剰余金、烏山町歳計剰余金とありまして、合わせますと8億8,400万円ほどになるわけですが、これは合併時に両町に残っていた歳計現金と理解してよろしいのか。それと、その下側に他会計補てん金返戻金というのが4,349万9,000円ほどあります。これはいかなる返戻金なのかをお伺いします。

同じページの20款市債の中の一番上の欄に合併推進事業債として1億1,120万円ほどあります。この使途についてお伺いをします。

次に31ページですが、説明欄の4欄目に2款1項7目の支出になるわけですが、財産管理費のうち調査整備費で5,063万7,000円ほど計上してあります。これはどこの庁舎をどう修理するのか。この内訳についてお伺いします。

次に41ページですが、衛生費の一番右下にあります水道事業会計出資金2,000万円というのがあります。出資する理由についてお伺いします。この意味は水道事業会計の繰出金も4,166万7,000円ありますが、繰出金というのは私ども今までの会計上承知しておりますが、出資金というのはいかなる理由で水道会計のほうに出資をするのかお伺いします。

次に60ページの教育費の10款7項1目に学校給食費があります。旧南那須町のほうは給食センターですべて委託をいたしまして各学校に搬送しているわけでありまして。児童生徒が毎年減っておりますので、南那須町の給食センターというのは相当余力があるのではないかと私は見ております。そこで、この給食センターに一番近い烏山小学校児童の給食を賄うことができないのかどうか。また、今できないとすれば、将来検討する余地があるのではないかと思います。このことは教育長が答弁いただければありがたいと思っております。

次に72ページ、73ページにかけまして、一般会計の建設工事一覧表というのがあります。この一覧表に示された事業というのは、今回新たに予算計上されたものなのかをお伺いします。それと、これは特別予算書にはありませんが、職員の給与の計上についてであります。南那須町の職員給につきましては、一般会計、熊田診療所、水道事業会計、これは歳出の中に人件費が含まれておりました。しかし、烏山町の予算書を見せていただきましたところ、老人保健特

別会計を除くすべての会計については職員給というのは載っているんですね。今回の予算書ではそのように烏山流に予算書は計上してあるようで、私はこのほうがふさわしいと思うんですが、市長としても来年度の予算はどうするのか。南那須流なのか、それとも烏山流でやろうとしているのかお伺いをしたいと思います。

最後にもう1点です。合併に要した費用の総額についてお伺いをしたいと思います。今回の予算の中にも合併に関する歳入歳出が計上されておりますが、この費用のうち2町合併を開始以来、合併前に支出した両町の費用、これは合併協議会で使った費用も含めて幾らかかったのか。さらに、この合併後要した費用、今回の予算にも相当多額の費用が載っているようですが、この額は幾らなのか、それを合わせた1本の額でも結構ですがこの点についてお伺いします。

以上、1項目で12点お願いしたいと思います。

○議長（青木一夫君） 休憩いたします。

休憩 午後 2時10分

再開 午後 2時23分

○議長（青木一夫君） 再開いたします。

答弁を求めます。

市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） 中山議員から12項目ほどのご質問をいただきましたが、私は2点ほどお答えをさせていただきます。

1つは、給食センターの今後のあり方についてのご質問がありました。政策に関することから、私よりお答えを申し上げます。合併協議の事務のすり合わせの中からでも私がたびたび発言をしていたところでございますが、南那須の給食センターは今1,500食の児童生徒の給食を行っております。しかも民間委託でございます。したがって、これからの方向性を決めるときに、同じような施設を旧烏山に同じ施設をつくるのか。あるいは従来の踏襲型でいくのか。あるいは旧南那須から配達をして持っていくのか。この3つの選択肢があると思っております。

その中で、私は常々申し上げていたのは、最後の選択肢、南那須の給食センターから配送すべきだということを主張してきました。今もその考えは変わっておりませんが、今1,500食で、あそこで5,000食ができるかどうかということを言いますと、これはできないというような回答がすぐ返ってまいります。これはネガティブな考え方でございますが、やはり実態をよく知らない回答だと思っておりますから、私は基本的には今の現有施設を共有しながら、民間委託をさらに拡大していきたいという考え方を持っておりますので、年間委託費は確かに

1,500食が5,000食になるわけですから、この委託費は増額になるでしょう。しかしながら、これからの行政改革を考えたときに、私はそれが一番適策であると考えておりますので、私は那須烏山市の給食のあり方については給食センター方式で、現在ある給食センターからの配送方式を考えておりますことを明確にお答え申し上げたいと思っております。

次に経理上の表現の問題で人件費の計上についてのお尋ねがございましたけれども、私は那須烏山市になった事務のすべてにおいては那須烏山市方式をとっていきたいと考えております。つまり、烏山方式、南那須方式でなくて。と言いますのは、今事務職においても合併時大変混乱を来しております。職員も大変苦勞いたしておりますけれども、やはりそれは何かと言いますと、どうしてもやはり話し合いが足りないと思っております。どうしても職員同士同じ事務をやるにいたしましても、これは烏山方式がいいんだ、南那須方式がいいんだということがあるように私は感じておりますので、まず、那須烏山市になったわけですから、すべての事務事業については話し合いの原点に立て、白紙に戻せ。話し合いをして、結局のところ烏山方式がよければそれを採用すればいいんであって、あるいは南那須方式がよければそれを採用すればいいのであって、まずはそういったことが那須烏山市方式のやり方であると考えておりますので、人件費計上についてもそのような考え方をさせたいと思っておりますので、ご了承いただきたいと思います。

以上です。

○議長（青木一夫君） 総務部長大森 勝君。

○総務部長（大森 勝君） では、質問に何点かお答えを申し上げたいと思います。

最初の質問につきましてはご質問のとおりでございます。基本的にはご質問のとおり差し引きで計上したというふうに思います。そのほかに新規事業としては、建設事業等も追加してございまして、後で工事請負費等の内訳の中で新規事業等についてはお答えを申し上げていきたいと思います。

2番目に合併の新規に見込まれる事業、歳入等について包括的にご説明を申し上げたいと思います。合併をする場合については、現在国、県の補助、また地方債等の措置があるわけでございます。今回の予算の中で見ているものについて触れておきますが、合併特例事業、合併前に合併推進債ということで1億1,140万円を計上してございます。そのほかに、合併市町村交付金ということで県のほうから5億円を3カ年で交付をするというものがございまして、今回5億の3分の1、1億6,600万円を計上しております。

そのほかに、特別交付税措置ということで、国のほうから措置がございまして、これについては6億8,000万円が対象になります。これは3年間で交付するということになっておりまして、1年目は5割、2年目が3割、3年目が2割ということになっておりますので、今回



3億4,000万円を計上してございます。

そのほかに、合併特例債といたしまして約100億円程度借りられるものでございますけれども、今回9,650万円を計上しております。そのほかに今回計上してございませんけれども、3月補正等を現在予定しております、基金造成に対する措置という措置というものがございます。これについては財政調整基金に伴うものと同じものでございますけれども、これについては13億6,500万円の起債の措置がされるということで3月計上してまいりたいというふうに思います。

総体的に今回の事業、これに伴う歳出の事業費につきましては3億9,150万6,000円を歳出で計上しております。その中で合併推進債が先ほど申し上げましたように1億1,440万円、合併特例債が9,560万円、特別交付金等で充当したのが1億8,360万5,000円ということで計上してございます。

そうしますと、平成17年度に旧市町村で支出をしたトータルにつきましては、烏山庁舎の改修の前払い金、電算の統合関係、庁舎の移転業務関係を含ますと2,554万3,000円が旧町の予算で措置をされてございまして、総体的には4億1,700万円の合併に伴う経費を支出をすることになったわけでございます。

特にこの中で新規で今考えておりますのは、ソフト面では道路台帳の業務委託関係とか社会副読本の改正をしなければならないということで、そういうものも計上しております。

3番の市税の滞納繰越関係につきましては、先ほど数字を挙げてご質問があったわけでございますけれども、平成17年10月1日の町税の滞納額を申し上げますと、9億7,267万8,000円が収入未済額として残っております。税目で見てみますと、固定資産税関係が9億3,053万円ということで滞納額の92.89%を占めております。質問の内容で1,100万円の計上につきましては、現在確実な線で徴収できるということで計上した金額でございまして、今後、税務職員を中心に滞納関係の徴収率の向上に努めてまいりたいというふうに考えております。

両町の歳計剰余金の8億円余の金額につきましては、今回年度中途の合併であるということから、通常ですと繰越金という措置をすると思います。これが中途の合併、財産の持ち寄りということから、今回合併についてはすべて歳入歳出差し引き関係の残った金につきましては、歳計剰余金として新市に引き継がれるということになりますので、今回雑入で計上いたしましたものでございます。

他会計の補てん金につきましては、国民健康保険税関係が8月が第1期の納期になるということで、南那須町の国民健康保険税について歳出歳入のバランス関係から6,300万円余が不足したということから、一般会計の歳計現金で一時立てかえをしていたということがござい

まして、その金額について一般会計に戻す措置をいたしたものでございます。

合併推進事業債の1億1,120万円の内訳を申し上げます。庁舎移転計画策定業務委託関係で80万円、烏山庁舎改修工事で780万円、庁舎間電話設置改修工事で110万円、電算関係の基幹系システムと業務関係システム関係で1億1,050万円、生活保護システム関係で20万円を計上いたしておりまして、合併推進債では1億1,140万円の計上に最終的にはなるわけでございます。

財産管理費の庁舎整備の5,063万円の内訳について申し上げます。これにつきましては、庁舎移転計画策定業務委託料が840万円、庁舎移転業務委託料が677万2,000円、南那須の屋根防水等改修工事が50万円、そのほかに工事請負といたしまして後で一覧表が出てくると思いますので総額で申し上げます、3,482万8,000円の計上が主なものでございます。

次に、建設工事一覧表の中で新規事業というご質問ですが、順を追ってご説明を申し上げます。財産管理の中で新規事業につきましては、南那須庁舎屋根防水等改修工事が新規になります。その下の交通安全対策費31万6,000円も新規でございます。防犯対策費105万円についても新規。保健、保育施設関係の7万円についても新規でございます。観光施設は継続でございまして、その次の道路維持費1,800万円、これもすべて新規になります。あとそのほかに、教育費関係の中学校と公民館関係の費用についても新規計上ということでご理解をいただきたいと思っております。

あと職員の給料の計上についてでございますけれども、先ほど市長のほうからお答えがあったわけですが、基本的には特別会計で老人保健等については人件費等を計上しないということに全国的に統一されておりますので、それ以外の特別会計等については経理を明確にするということから、今後の人件費等についても計上させていただきたいというふうに思っております。

最後の合併に要した費用関係等につきましては、協議会を含めた費用というご質問でございますので、計数的に把握しておりませんので、後日含めた数字等についてはご報告を申し上げたいと思っておりますので、ご理解をいただきたいと思っております。

合併後に要した費用等につきましては先ほどの中でも触れておりますので、ご理解をいただきたいと思っております。

以上でございます。

○議長（青木一夫君） 市民福祉部長 正俊君。

○市民福祉部長（正 正俊君） 一般会計におきます老人保健特別会計の繰入、繰出金につきましては相殺できないかというご質問に対しまして、お答えをいたしたいと思っております。相殺

は可能であります。しかし、今回このような措置をさせていただきましたのは、ご承知のように老人医療費の場合は患者さんが医療機関の窓口でお支払いした残りにつきましては、社会保険診療報酬支払い基金、国庫、県、市町村ということで負担割合が明確にされております。したがって、精算、決算等におきまして、その予算額、医療費が予算よりかからなかった場合につきましては精算をかけまして、一般会計のほうに戻すということでしております。

したがって、今回は平成16年度決算等に伴いますと一般会計ルール分移動につきましては戻すということで今回繰入金措置しました。また、歳出の繰出金につきましては、今回のこの本予算の中で、これから6カ月間でかかる医療費につきまして市のルール分の負担につきまして繰出金という形で措置をさせていただきました。ご理解いただきたいというふうに考えております。

○議長（青木一夫君） 建設部長池尻昭一君。

○建設部長（池尻昭一君） 水道事業会計繰出金、出資金についてお答えを申し上げます。まず、水道会計繰出金については、旧南那須町の水道会計の簡易水道分の元利償還金等に相当する額4,166万7,000円、水道事業会計出資金については水道の高料金対策費として2,000万円、この高料金対策費の繰出対象については、有収水量1立方メートル当たり資本費が178円以上かつ原水価格が284円以上という定めがございます。平成15年度に旧南那須町の資本費がこの基準を上回っておりましたので、繰出基準に基づいて一般会計からの出資金として繰り出しをお願いして受け入れるところでございます。なお、この繰り出しについては、地方交付税の措置がされているという内容のものでございます。

以上でございます。

○議長（青木一夫君） 17番中山五男君。

○17番（中山五男君） 先ほど質問いたしました12項目については了解をいたしました。それでもう1点つけ加えてお伺いしたいんですが、先ほどの市長の説明でしたか部長の説明でしたか、烏山小学校でしたか、スクールバスを購入するというような説明がありましたが、これは何ページのどこに計上されているのか、それ1点だけお伺いします。

○議長（青木一夫君） 教育次長堀江一恵君。

○教育次長（堀江一恵君） 大変遅くなりました。予算書のほう細かく書いていないものですから、申しわけございません。中学校管理費の中に2台分940万円が入っております。55ページの中中学校学校管理費の施設整備費1,121万9,000円、この中にバス2台分が入っております。これに伴いましては、統合に伴いますスクールバスの購入というふうにご理解いただきたいと思います。

○17番（中山五男君） 了解しました。

○議長（青木一夫君） 35番平塚英教君。

○35番（平塚英教君） まず、平成17年度的那須烏山市の予算書というのを本日朝受け取りまして、半年間にわたる膨大な予算にもかかわらず、本来であれば総括質疑を行って、なおかつ各委員会に付託をして、審議の後に本会議で採択というのが妥当だったかなというふうに議会運営委員会の委員長としてまことに申しわけございません。

質問に入りたいと思いますが、まず一番最初は固定資産税の累積問題です。これは先ほど市税全体では9億7,267万8,000円ということで、そのうち固定資産税の滞納額が9億300万円ということでございます。その中で旧烏山分は幾らあったんでしょうか。本年の10月23日付の下野新聞によれば、市町村税の滞納が414億円ということで、その中で市町村別に見ると、徴収率をもっとも悪いのが烏山町で63.9%、これは平成16年度の決算だと思うんですが、こういうふうに書かれてしまって議員の1人として非常に申しわけないなというふうに思っているわけです。

この問題につきましては、特に10年来の特定法人の問題が横たわっているわけですが、法的手段をとっても解決をすると前の方がおっしゃっておったんですが、残念ながらそのままやめられてしまいました。しかし、これはやはり住民の皆さんにはそのまま残るわけです。これについて明快な解決策を議会と一緒に考えていただきたいというふうに私は議会でも何遍も述べたわけなんです、残念ながら具体策については議会のほうに相談がされなかったということで、合併後今日に至っているということでございます。

この合併した中で、この問題を旧南那須町においても同様の問題が横たわっていたようでございますが、合併前に、大きいものについてはある程度の決断をもって処理されたというふうに聞いております。これの辺が同じにできればよかったのかなと思っているんですが、条件が若干違うんでしょう。簡単にはいかなかったかもしれませんが、議会に説明がなかったのは間違いありません。そういう意味で、これについて引き続いて住民に迷惑をかけるわけにいきませんので、明快なる解決する方法を示していただきたいと思います。

2つ目は、今回のこの予算の中には公共事業、建設整備関係の予算が一般会計だけでも8億円以上あると説明がありました。この公共事業につきましては、入札問題につきまして宇都宮市を初め地方自治体等で談合問題が発覚をして、大きな問題になっております。当市といたしましては、この談合防止の具体策、また談合問題についての厳しい罰則をどのように考えているか。この辺の公共事業の入札について見解を求めたいと思います。

3番目は、学校統廃合の予算がこの中に入っているということでございます。5年間の統合計画の中で、平成18年度から第一弾が境中を烏山中にということで統合する計画を1,900人の反対署名を押して進めたということでもあります。この地域住民の説明会の中で、町の執行部

の教育委員会も含めて、住民間でさまざまな約束事を決めたというふうに思っておりますが、これをきちんと合併後、この予算の中で住民説明会の中でやりとりをした約束事をきちんと着実に実施していただけるのかどうか。このことを伺いたい。

特に、自転車で新たに通学をしなければならない生徒も数多く出てまいりました。この通学の安全対策、また通学路におきましては大変県道、市道、傷んでいるところがございます。この道路整備を具体的に進めること。また、保護者負担等のさまざまな軽減措置も約束事があります。これについてもきちんと実施していただきたいと思いますが、これについてのご回答をお願いしたいと思います。

次に、学校問題は2年間かけて烏山町の教育のあり方を考える懇談会というのが町民各層の代表でつくられて協議をして、その結果を教育委員会に答申をしたわけでありましたが、その中に35人学級の推進というのがあったんです。統廃合のほうばかり進められているんですが、35人学級を同時に進めていくという約束事はどうなってしまうのか。これについても学校統廃合、住民説明会では全くこの問題については説明がありませんでした。この問題についてご回答をいただきたい。

次に、介護保険の問題でございますが、施設入所者のホテルコスト、食費につきましては全額自己負担というふうに切りかわったわけでありましてけれども、10月からこれに移行していると思うんですが、月額平均で今までの負担分におおむね幾らぐらい上乗せになったのか。その数字があれば、お示しをいただきたいと思います。

6つ目の質問は、旧烏山町の公共下水道の排水溝の整備された地域について一般住民の皆さん、受益者の皆さんがつなぎ込みをする率が平成16年度の決算では22.4%と極めて低い数字が出されております。その後、排水溝への一般住宅からのつなぎ込みを普及するための努力がされたのかどうか。これについてご回答をお願いしたいと思います。

最後に、那須烏山市のホームページがあるわけなんですけれども、本年11月19日現在では11月6日に選挙が行われて新市長が誕生しているのにもかかわらず、11月19日では職務執行者の説明しかありません。なおかつ、ここにいろいろな細かな項目があるんですけれども、ここへアクセスしても全然中身がないそうです。これではホームページの役割を果たしませんので、これはどうなっているのか説明をお願いします。

以上です。

○議長（青木一夫君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） 平塚議員のご質問にお答えをさせていただきます。

固定資産税の累積問題でございますが、確かに特殊法人に法的な手段をとるというようなことで、今までの旧烏山町から引き継いでおります。議会に相談がなかったことも経過の中であ

ったようでございますが、当然南那須町も単独町でやっていたときにもありましたが、若干それに近い数字の滞納未納額があったわけでありまして、旧南那須町におきましては6億円強だと思えますけれども、不納欠損処理をしたという経緯が実はございました。これも新たな債権者があらわれ、新しい会社が誕生したということに伴ってのことでございますので、法的には合法の手段をとらせていただいたという経過でございますので、今後確かに今持ち上がっている大変大きな課題でございます。先ほどの所信でも述べさせていただきましたけれども、全庁を挙げてこの未納対策には取り組んでまいりますので、したがいまして議会あるいはこういった住民の有識者ともよくつぶさに相談をして、あるべく形で処理をしていきたいと思っておりますので、このことについてはご理解いただきたいと思います。

入札の問題でございますが、大きな工事あるいは委託等も含めてたびたびこういった話題に乗る課題でもございます。入札の談合等の問題については、あつてはならないことでございますので、大変厳しくこれらに対処していくことは私どもも間違いない事実と思っておりますので、対応していきたいと思っております。

昨今のこのような公共的な事業も疲弊をする。あるいは財政上の厳しい中でございますので、大いに企業の皆さん方には企業の競争力をつけていただいて、公平で公正な入札ができるよう行政としても指導はしてまいりますし、仮にそういったことが発生をした場合でもかなり厳しい対応でしてまいりますので、これもご理解を賜りたいと思っております。

さらに、中学校の統廃合の問題について触れられましたが、今までの境中学校の統合等の問題につきましては、そういった約束事で経過をされておりますことも承知をいたしておりますし、先ほどの所信の中でも述べさせていただきましたけれども、統廃合ありきの場合に子供たちの通学路の安全確保が大変重要なことと考えておりますので、今ご指摘になった約束事というのはその一つにも入ると思っておりますので、その約束事が必ず履行することをお約束をさせていただきたいと思っておりますので、ご理解をいただきたいと思います。

また、35人学級に言及されましたけれども、これは少人数学級、教育長の考え方もあるでしょうが、統合小学校、複式あるいは複式の学校にはあたらないと思えますけれども、県当局についても町単独のときにも要望はしてまいりました。統合の小学校あるいは中学校については、35人学級と言わずとにかく最低2クラス編成をお願いしてきた経緯がございますが、財政上なかなか許さないということで、県も縦に首を振っていない状況でございますが、とりあえず統合小学校については35人、市の単独事業を入れてもそのようにしていきたいと思えます。

いずれにいたしましても財政の許す限りということになりますので、全学年の35人学級は無理かもしれませんが、いずれにいたしましてもチーム・ティーチングなど入れながら、子供

たちの教育については全面的に35人学級はなかなか難しいと思いますけれども、チーム・ティーチング授業も織りまぜながら、小学年のあるいは必要学年についてのそのような考え方は基本的に私は持っておりますので、ひとつそのこともご理解をいただきたいと思っております。

介護保険等については市民福祉部長からお答えを申し上げますが、公共下水道の排水溝、つなぎ部分が22.4%ということでございますが、旧南那須は約75%の加入率でございます。それだけ手をこまねいていたのではないかなということなんですが、やはり75%に行くまではかなり南那須も時間がかかりまして、実は水洗化するにしても大体100万円ぐらいかかっちゃうんですね。そうしますと、やはり下水道に入れ、使用料も払え、そして分担金は水洗便所になると100万円ぐらいかかってしまうということになると、有利な融資制度もやったんでございますけれども、一概にすぐ入るということにはなかなかありませんでした。その辺は下水道職員を初め土木課を挙げて加入率促進に努めておりますので、ひとつ今後ともこのことについては推進方傾注してまいりますので、ご理解をいただきたいと思っております。

最後のホームページでございますが、企画課のほうから過日報告がありました。これも実は委託をしているのでございます。合併時の混乱ということもあったんでしょう。委託のところで見積もりの安いところに頼んだということなんですが、何度催促してもなかなか立ち上がってこないということで、大変私も責任を感じていますが、その辺の状況でございますが、きょうは29日ですから、おそらく既にもう立ち上がっているのかなというふうに理解はいたしておりますが、その辺の確認はできておりません。

経緯といたしましては職員も苦労いたしましたけれども、平塚議員のご指摘の日時には立ち上がっていなかったことも事実であります。これはおわびを申し上げなければなりません。一日も早いホームページ開設に向け今努力をしているところでございますので、これもまたご理解いただきたいと思います。

以上でございます。

○議長（青木一夫君） 教育次長堀江一慰君。

○教育次長（堀江一慰君） 統合に関します経費関係、説明会時のお約束ということでございますので、予算書関係に沿いまして私のほうから、市長のほうは外郭的なことをご説明いただきましたのでご理解をされたというふうに思いますが、実質的な予算措置の状況につきまして私のほうからかいつまんでご説明をさせていただきます。

460万円の内訳といいますか、説明会のときに出了た消耗品、被服費関係ですかね、中学生のジャージ関係、それと学習教材関係が境中学校と烏山中学校で違うものですから、それらに対します生徒の補助教材関係の予算措置もさせていただいてございます。なお、上履き、体育館履きというものも予算措置をしてございます。それと、机と椅子関係なんですが、若干

烏山中学校と境中学校でサイズが違うようでございまして、新たに購入する費用関係等につきましても措置をしてございます。ご指摘をいただきました自転車の関係、3万円を上限にということで45人分措置をしてございます。

そのほか、通学のバス関係につきましては、先ほど答弁しましたように2台購入する予定でございまして、朝につきましては路線バス等の活用も考えながら安全対策には万全を期してまいりたいというふうに思います。

なお、そのほか統合に関します学校間の交流ということで、境中学校の生徒が烏山中学校に動きまして部活動の見学と、烏山中学校の学校の経営方針等につきまして烏山中学校の校長等が境中学校へ出向きまして、保護者、PTAの役員等につきまして説明をしながら、統合がスムーズにいくように努力をしていきたいというふうに思っておりますので、ご理解を賜ればと思います。

○議長（青木一夫君） 総務部長大森 勝君。

○総務部長（大森 勝君） 固定資産税の各町の滞納額というご質問がされたわけですが、これにつきましては那須烏山市の予算ということで、地区ごとには分けておりません。今回9月いっぱいの決算から推計してみますと、南那須が1億円、烏山が8億円というふうになるだろうと考えております。

ホームページ関係につきましては、先ほど市長からご答弁したわけですが、大変おくれて担当部長としても申しわけないというふうに考えております。本日現在の状況をご説明いたしますと、観光ガイド編を除きすべて作成いたしましたので、そのようにお伝えをしていただければありがたいというふうに思います。観光ガイド関係については烏山と南那須の観光を統合するというので今進めておりまして、もう少し時間をいただければありがたいというふうに思っております。よろしくお願いいたします。

○議長（青木一夫君） 市民福祉部長 正俊君。

○市民福祉部長（正 正俊君） 介護保険についてお答えいたしたいと思います。議員ご承知のように、本年の10月1日から介護保険の一部改正がございまして、その中で月額平均どのぐらい負担がふえたかというご質問でございますが、10月1日からスタートしたということでまだ連合会との支払いができておりませんので明確な数字が出ておりませんが、単純にしますと、居住費が現在旧烏山町の敬愛荘、旧南那須町の愛和園、大部屋に入っている場合だと320円が1日居住費、それから1日当たりの食費が1,380円ということですから、1カ月計算しますとおおむね5万3,000円ぐらいの負担増になるかなと考えております。

ただし、これにつきましては議員もご承知のように減額認定制度がありまして、そこに該当しますとそれぞれ食費とか居住費が減額される制度になっております。ちなみに那須烏山市で



は、現在介護保険関係で認定を受けている方は1,155名おります。そして、サービスを受けている方は949名、そして減額認定申請を交付を受けて減額認定の対象になっている方は290名ということで、サービスに対しまして減額認定者は12.4%、約1割ちょっとが減額の対象者ということでございます。

以上でございます。

○議長（青木一夫君） 35番平塚英教君。

○35番（平塚英教君） 2回目の質問ですけれども、固定資産税は大きな問題でございますので、相手方もありますがとにかく臆することなくと言ったらいいいんですかね、それこそちゃんと督促をして、市民のレベルで納得いく方向で解決をしていただきたいというふうに思います。

入札の問題ですが、これについては一般論でいろいろと説明がありました。しかし、例えば予定価格の公表とか、旧南那須町がどういうことをやっていたか私は理解していないんですが、さまざまな具体策が考えられるかなというふうに思うんですが、うちの町の場合にはそれが高上りになるというのでやらなかったという経緯もあるんですけれども、適切な公共事業の単価でなおかつ安心、安全な公共事業というのが実施されるように、なお談合がないような対策をきちっと進めていただきたいと思います。

大体説明で理解できましたが、先ほどホームページの問題ですけれども、このほかに那珂川連邦共和国というのもやっているんですね。これが極めてお金がかかる割には中身がないということで、私どもご批判を受けているんですけれども、今回茂木町のほうも広がったという話も聞いているんですけれども、本当に中身が実効力あるのかないのかと非常に問題になっているんですけれども、大体年額幾らぐらいかかって、そしてどんな事業をやっているのかもう一度ここで説明をいただきたいと思います。

また、質問が先ほど漏れて申しわけなかったんですが、平成16年度から烏山町の公民館、運動施設関係、また学校開放関係の利用料金が有料化になりました。この条例を今度合併した中で那須烏山市条例ということで、南那須町には南那須町の旧条例があったそうですけれども、減額減免で取っていなかった。これを烏山町の平成16年度からの原則有料に合わせて、那須烏山市がこれらの施設利用料金を取り立てるということになったんですけれども、南那須分は幾らぐらい今までの利用料からすると有料化になるのか。その辺、ちょっと説明のできる範囲でご説明いただければというふうに思います。

以上です。

○議長（青木一夫君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） 固定資産税等の未納問題につきましては、全庁挙げてやっていき

いと思っておりますが、もちろん税務課挙げての滞納をやることは間違いはないんですが、さらに全庁挙げてといいますのは、収納対策本部等も組織をいたしまして職員挙げて取り組んでいく機関も設けてみたいと思っておりますし、さらには嘱託徴収員制度の導入を図ることになっておりますので、そういうものを駆使しながら未納対策については取り組んでいきたいと考えております。いろいろとこの未納対策については、生ぬるいというようなご指摘も実はいただいておりますので、そのようなことも議会とも相談もしながら強制執行等も辞さない考えで考えておりますので、ご理解いただきたいと思いますと思っております。

入札問題、先ほど補足をさせていただくのをお忘れかもしれませんが、予定価格については公表を原則といたしております。高どまりになるのではないかとということでございますが、予定価格公表でございます。設定をいたしましてこの条件を決めまして1%から5%の間で企業努力をお願いするということになっておりますので、その設計やあるいは工事、あるいは工事の内容等についてはかなりの節約になっておりますので、これは公表を考えております。予定の価格の公表、そして低入札価格制度の導入もしてまいりたいと思っておりますので、一概に最低制限価格を下回りましても失格にならないという制度でございます。そのようなことで、公共事業、今、安全、安心というような言葉を出されましたけれども、できる限りその費用対効果がある入札制度が望まれておりますので、このことについては景気の問題等に変左右されることでございますので、真剣に取り組んでおりますことを補足させていただきたいと思います。

バーチャル那珂川連邦共和国についてご指摘いただきましたけれども、過日総会がありまして、会長が那須烏山市長に回ってまいりました。これは議員もご案内のとおり、この7町村で始まったんですけれども、今は合併によりまして2市2町ということになりました。しかしながら、過去の経緯を考えてみますと、県の補助金も大変いただいておりますし、町も大分投資をしているのであります。これを今やめるというわけにはいかないということで、この前総会であいさつしたんですが、今やり方が私は納得いかないの、企業案内とかそういう案内一方に終わっているんですね。ですから、そうじゃなくて、これは経済的な効果が上がるような物産の特産品の販売購入であるとか、そういった方向に見直す必要があるのかなと見ておりますので、投資がいがあるようなことで見直していきたいと思っておりますので、これもご理解いただきたいと思います。

以上です。

○議長（青木一夫君） 教育次長堀江一慰君。

○教育次長（堀江一慰君） 公民館及び体育施設関係の使用料の関係の増加といいますか、どのようになっているかというようなご指摘をいただきました。まず、昨年の烏山町の決算に対しまして体育施設関係につきましては、上半期で大体二、三十万円の増加といっちは語弊が

ございますが、そういう状況でございますので、4月から9月決算で南那須町の体育施設関係を見ますと100万円ほど収入が入っているようでございますので、総体的には伸びてくるといっては語弊がございましたが、そういう状況だということだけお知らせをしておきたいというふうに思います。

公民館使用料関係につきましては、やはり南那須町の環境改善センターの収入がふえるわけでございますが、上半期で十四、五万円の収入ということでございますから、総体的には40万円程度の収入が施設使用料として入ってくるのかなというふうに推計をいたすところでございます。

以上です。

○議長（青木一夫君） 18番郡司昭三君。

○18番（郡司昭三君） 私のほうは4点ほどお願いをしたいと思うんですが、市長が一番最初に大綱といいますか、これからの那須烏山市の方向といたしまして行政改革をいろいろ数値を挙げてやったということでございますが、これから私どもの考えるのは、やはり330名からの職員の資質の向上、意識改革、これがもう最大の一番の理由だと思います。

そういうことになりますと、この能力向上あるいは資質の向上を図るために総務費として総務管理費が2,056万7,000円の人事管理費で79万4,000円をとっているわけでございますが、一体これからそういう職員の資質の向上あるいは能力向上に対しましては、どのような施策をもってこれからあたっていくのか。例えば研修を組むとか、あるいはよそに行って研修会を重ねるとか、あるいは改善提案をするとか、いろいろ角度があると思うんですが、一体これは市長、どういうふうにこれから考えているのか、お答えをいただきたいと思っております。

それから、先ほどもいろいろ市税につきましては賦課金の事業、あるいは徴収等についても大変ご苦労なさってやっている。ただ、今お話を聞いておりますと10億1,500万円からの滞納金が、それより多いぐらいあるというようなお話も聞いております。これが即刻解決をしないと、やはり市民の信頼感あるいはこれからの運営についても重大な影響を来していくということになりますので、これはまず合併によりまして、ひとつ思い切った施策をとって、これを一日も早く改善されるように特段に市長にお願いをするんですが、その対策についてお考えがあればいただきたいと思います。

それからもう一つは熊田診療所でございますが、現在事業が進んでいるわけでございますが、現在の進捗状況は一体どうなっておりますでしょうか。また、期日までにきちんと仕事を終えて患者さんの受け入れ体制ができるのかどうか。その辺についてひとつ見解をお願いをいたしたいと思います。

農業振興について申し上げますが、特に市長は合併当時から当市の農業は基幹的産業だとずっと言っていたわけですが、私もその会議の中でも再三再四答弁を求めたわけですが、やはり農業を振興させるということにつきましては、あるいは若い担い手の育成、あるいは集团的営農の推進、それから専業農家の育成といろいろと対策があると思いますが、やはり何と言いましても、当市におきましては農業は一大の事業でございます。やはり実際を考えてみますと、もう60歳以上が農業従事者であって、ほとんど農業離れがどんどんどんどん進んでいくということでございます。具体的に今後それを解消するために、どんな方法がひとつ新しい施策といいますか、あるいは私はいつも農協あるいは普及センターとよく連携をとりましてやっていただきたいということを申し上げていたわけですが、その辺のところをひとつ農業振興については、具体的にどんな方策をこれから持っていくのかお聞かせをいただきたいと思います。

以上です。

○議長（青木一夫君） 市長大谷範雄君。

○市長（大谷範雄君） 郡司議員から4点のご質問がございました。順序に従ってお答えをいたします。

まず、職員の意識向上、そして資質の能力向上をどのような手はずでやるのかというご質問でございました。私は331人の職員がやはりすべてすばらしい市の職員になっていただくべく、研修も含め、あるいはもちろん行革の範疇、行政改革は徹底をしてやってまいりますが、年次ごとの適正化職員の数も含めてやってまいります。

その中で、やはり職員の資質向上は必須でございますから、まずは何と言っても意欲の持てる職員、そして自分の能力向上のための研さんをする職員の開発、判断力のある職員、そのような3本柱を私は考えております。そのためには、やはり自己研さんをする。どうしても勉強をして、やっぱり私は質を上げるんだという意欲がなければ元も子もございませんので、私はそういった環境づくりが大変大事だなと思っておりますので、私は勉強したいという職員については仕事外にそういった研修を受ける、自分から研修を受けるといったことについては、時間も与えてあげたいというふうに思っております。また、さらに今ブロック研修など通常的にやられていることはさらに拡大をしなければならないのは当然でございます。

さらに、今回は部長制もしきました。いわゆる部長、課長両方の管理職種がつきましたので、そのようなことから、仕事上の指導、教育というのも一番効果が上がるOJTといいますか職場研修、仕事をやりながらの研修というのが一番効果が上がると思っておりますので、部長、課長によるそういう指導も私は大変重要なことであろうと考えております。したがって、考えられる職員の意欲、そして研さん、そしてまた判断力のつく職員を醸成するためには、い

ろいろな手段を駆使しながらあるべき職員に醸成をしていきたいと考えております。

また、賦課徴収、未納対策等につきましてはご質問がございましたけれども、このことは先ほど来申し上げておりますように全庁挙げて取り組んでまいります。全職員あるいは係長以上の職員を対象にした徴収対策本部等も設置をしたいと考えておりますし、嘱託徴収員制度も考えております。そういったこととか、あるいは議会とも相談をしながら強制執行等の手段も新生那須烏山市としては大いに考えておりますので、この賦課徴収は公平性の問題から積極的あるいは強い姿勢で臨む所存でありますので、これもご理解をいただきたいと思います。

熊田診療所につきましては、過日市民福祉部長の案内でもって中間的に私も現地を視察いたしました。順調に進捗をいたしておりますことをご報告申し上げます。来年の2月には完成いたしまして、準備期間約1カ月とすれば、3月にはオープン開所ができるのかなと考えておりますので、当地域の住民の交流センターとも合わせた施設ということも考えておりますので、高齢者の福祉向上のために寄与できる施設が来年の3月には開所できる見込みでございますので、ご報告を申し上げます。

農業の振興発展にお尋ねがございました。これからの農業というものは、このような高齢化社会の中では営農集団的な地域ぐるみ、あるいは担い手に集中すべきだろうと考えております。今モデル的には南那須地区の南部地区土地改良区の営農方法がまさにそれでございます。今度烏山の七合地区にそれが入りますが、営農集団型、その中に環境保全型を入れたりというような農業だろうと思っております。

しかし、高齢化とともにそういった担い手が少なくなるのではないかと思いますと、極めて私どもの団塊の世代などを考えてみますと、今の農業に興味を持っている方も大変多いわけでございますので、私は農業後継者については当面はあまり心配をしていないのでありますが、さりとて今後10年、20年後のことはさらに心配があるものですから、今ある農業公社あるいは農協、あるいはシルバー人材センター、そういった連携を組んで、さらに那須烏山市の基幹としての農業のあるべく体制を進めていきたいと思っております。

また、都市と農村の交流事業も大変大事でございまして、趣味的農業も私は呼び込む必要があるだろうと思っております。そのためには特産品なりいろいろと開発をして、これを都市部にできるだけ経済効果があるような流通革命ができるだろうと思うんです。やはり農業の継続というのはどうしてもお金がもうからないと続きませんので、そのような受け皿もやはり必要だろうと思っておりますので、そういうことも含めた農業の活性化は喫緊の課題として真剣に取り組んでいきたいと思っておりますので、これもご理解をいただきたいと思います。

以上です。

○議長（青木一夫君） 18番郡司昭三君。

○18番（郡司昭三君） 今の市長の答弁でおおむね私も理解しました。時間もありませんから理解したいと思っておりますが、ただ、何回も言うようですが、職員の関係につきましては市長も言われるように積極的に意欲のある職員の養成、あるいはこれからの方向、これだけはぜひともひとつ進めて、なるほど那須烏山市の職員は立派だと。そして、地域の発展のために寄与しているという一つのモデルケースになるような明るい方向で転換されるようお願いをいたしたいと思っております。

それから、診療所につきましては期日までにきちっとできますれば、地域の患者さんかなり期待をして、新しい医療に取り組んでいくということでございますので、よろしくお願いいたしたいと思います。

それから、農業振興でございますが、今も話がありましたようにこれからもつくる農業ではなくて考えていく農業ということだろうと思っております。したがって、これから烏山線あるいは沿線、あるいは都市型の農業を都市化の波と一緒にうまく調和をとりながら、あるいはやっていただきたい。そういう方策を検討していただきたい。我々議会もこれから真剣になって、この点については一緒になって考えていくというふうにしたいと思っておりますので、よろしくお願いをいたして、私の質問を終わります。

○議長（青木一夫君） 10番佐藤雄次郎君。

○10番（佐藤雄次郎君） 何点か言おうと思ったけど、時間がないので1点だけよろしくお願いします。

23ページの中山間地域の直接支払い金が耳新しいのでこれだけお聞きします。これは栃木県からの中山間地域が何カ所か指定を受けております。これはどういうものなのか、まず聞きたいということと、多分林野率で中山間地域が指定されるというふうに思いますが、これは見直し等があるのかどうかを聞きたいと思います。

以上です。

○議長（青木一夫君） 経済環境部長佐藤和夫君。

○経済環境部長（佐藤和夫君） 中山間地域の直接支払いについてお答えを申し上げたいと思います。

まず、中山間地域の定義でございますが、幾つかの定義がございまして、1つは勾配、20分の1以上の田面積が全田面積の50%以上というのが1つの条件です。2つ目は、勾配15%以上の畑の面積が全畑面積の50%以上。3番目としましては、林野率が75%以上。4番としまして15歳以上人口に対する農林業従事者数の割合が10%以上ということでございまして、これらに該当するのが本市では国見地区だけでございまして、この国見地区には現在これらに該当している水田が2.2ヘクタール、2万2,000平米ございまして、直接支払

いは平米当たり20円支払われるわけでございまして、これは国が3分の1、県が3分の1、市が3分の1で交付しているわけでございます。交付している金額が46万2,000円でございまして、本来であれば44万円ですが、2万2,000円が事務費ということでご理解をいただければと思います。

以上でございます。

○10番（佐藤雄次郎君） 了解。

○議長（青木一夫君） ほかに質疑がないようですので、議長において議事進行し、これで質疑を打ち切ることにご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） 異議なしと認めます。

よって、これで質疑を終結いたします。

これより討論に入ります。

議案第1号 平成17年度那須烏山市一般会計予算に対する反対討論を許します。

35番平塚英教君。

〔35番 平塚英教君 登壇〕

○35番（平塚英教君） 議案第1号 平成17年度那須烏山市一般会計予算について、総額59億3,250万円の予算でございます。国を挙げて小泉内閣の構造改革ということで社会保障のあらゆる分野に医療、年金、介護など負担増を押しつけており、さらに今度の突風総選挙後は、選挙のときの争点にできなかったようなサラリーマン増税や消費税増税をもくろむというような状況の中で、地方自治体におきましてもこの構造改革は三位一体ということで地方交付税と補助金を大幅に減らす。県、市税では10%上げるということでございますが、差し引きますと大幅に減額されるということは明らかであります。

旧烏山町と旧南那須町で国のこのような厳しい財政措置のもとで合併をせざるを得ないということで、今回合併をしたわけでありましたが、さらにこの三位一体の構造改革を押しつけられますと、合併したとしても財政運営は非常に厳しくなるといふふうに私は考えます。こういう状況の中で、市長を初め市の職員の皆さんはこの厳しい財政状況の中で大変ご苦労されていろいろな対策をとられているということは、先ほどの質疑説明の中でも十分理解をするものであります。

しかしながら、旧町から引きずっております固定資産税の累積滞納、町税全体では9億7,000万円ということで、固定資産税で9億300万円、そのうち旧烏山町の方だけでも8億円あるということでございます。これにつきましては、単に相手をお願いをするというようなレベルではなくて、それこそ弁護士を立てて相手を訴えても、これを確保するような強い拘束

力を持った手段に訴える必要があるというふうに考えます。そういうことをしない中で、これを単に欠損処分ということでは市民の理解が得られないと私は考えておりますので、この点については決死の覚悟で解決に向けたご努力をお願いしたいというふうに思います。

いろいろありますが、もう1点は公民館及び運動施設関係、学校開放施設関係につきましては、旧南那須町は平成16年度から烏山町が有料化になったということを踏まえて、那須烏山市に移行する中で有料化になるわけであります。これは合併のときには負担は軽いほうに、サービスは重いほうにという原則と逆行することになりますので、これについても同意をすることはできません。

さらに、行政改革ということが市民の皆さんからの非常に強い要望かというふうに思いますので、むだをなくし、住民の信託にこたえるむだのない厳しい行財政執行に期待を求めまして、私の反対討論とさせていただきます。

○議長（青木一夫君） 次に、賛成討論の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） ほかに討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） ほかに討論がないので、これで討論を終結いたします。

採決いたします。日程第10 議案第1号については、原案のとおり可決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（青木一夫君） 賛成多数。

よって、議案第1号については、原案のとおり可決いたしました。

次に、議案第2号 平成17年度那須烏山市国民健康保険特別会計予算に対する反対討論の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） 次に、賛成討論の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） ほかに討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） 討論がないので、これで討論を終結いたします。

採決いたします。

日程第11 議案第2号について、原案のとおり可決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕



○議長（青木一夫君） 挙手多数。

よって、議案第2号については、原案のとおり可決いたしました。

次に、議案第3号 平成17年度那須烏山市熊田診療所特別会計予算に対する反対討論の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） 次に、賛成討論の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） ほかに討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） ほかに討論がないので、これで討論を終結いたします。

採決いたします。日程第12 議案第3号について、原案のとおり可決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（青木一夫君） 賛成多数。

よって、議案第3号については、原案のとおり可決いたしました。

次に、議案第4号 平成17年度那須烏山市老人保健特別会計予算に対する反対討論の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） 次に、賛成討論の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） ほかに討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） 討論がないので、これで討論を終結いたします。

採決いたします。

日程第13 議案第4号について、原案のとおり可決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（青木一夫君） 挙手多数。

よって、議案第4号については、原案のとおり可決いたしました。

次に、議案第5号 平成17年度那須烏山市介護保険特別会計予算に対する反対討論の発言を許します。

35番平塚英教君。

〔35番 平塚英教君 登壇〕

○35番（平塚英教君） 議案第5号 平成17年度那須烏山市介護保険特別会計予算につきまして、予算総額11億6,200万円の予算総額であります。これにつきましては、介護保険にかかわる措置費でございますが、その中に10月1日から介護保険の施設入所者のホテルコスト、食費の全額自己負担制度が導入され、先ほどの質疑にもありましたように一般の大部屋の入所者で月額5万3,000円負担増になる方が大幅にふえるということでございます。これは、国の制度改悪に伴うものであります。お年寄りの負担増で介護保険から締め出すような方が出るおそれがあるということで、これは福祉の後退だということを訴えまして、これについては反対をさせていただきます。

○議長（青木一夫君） 次に、賛成討論の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） ほかに討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） ほかに討論がないので、これで討論を終結いたします。

採決いたします。日程第14 議案第5号について、原案のとおり可決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（青木一夫君） 挙手多数。

よって、議案第5号については、原案のとおり可決いたしました。

次に、議案第6号 平成17年度那須烏山市農業集落排水事業特別会計予算に対する反対討論の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） 次に、賛成討論の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） ほかに討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） ほかに討論がないので、これで討論を終結いたします。

採決いたします。日程第15 議案第6号について、原案のとおり可決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（青木一夫君） 挙手多数。

よって、議案第6号については、原案のとおり可決いたしました。

次に、議案第7号 平成17年度那須烏山市下水道事業特別会計予算に対する反対討論の発

言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） 次に、賛成討論の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） ほかに討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） ほかに討論がないので、これで討論を終結いたします。

採決いたします。日程第16 議案第7号について、原案のとおり可決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（青木一夫君） 挙手多数。

よって、議案第7号については、原案のとおり可決いたしました。

次に、議案第8号 平成17年度那須烏山市簡易水道特別会計予算に対する反対討論の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） 次に、賛成討論の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） ほかに討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） ほかに討論がないので、これで討論を終結いたします。

採決いたします。日程第17 議案第8号について、原案のとおり可決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（青木一夫君） 挙手多数。

よって、議案第8号については、原案のとおり可決いたしました。

次に、議案第9号 平成17年度那須烏山市水道事業会計予算に対する反対討論の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） 次に、賛成討論の発言を許します。

〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） ほかに討論はありませんか。

〔「なし」の声あり〕

○議長（青木一夫君） ほかに討論がないので、これで討論を終結いたします。

採決いたします。日程第18 議案第9号について、原案のとおり可決することに賛成の諸君の挙手を求めます。

〔賛成者挙手〕

○議長（青木一夫君） 挙手多数。

よって、議案第9号については、原案のとおり可決いたしました。

これをもちまして、この臨時会に付託された案件はすべて終了いたしました。

ここで、市長のあいさつを求めます。

〔市長 大谷範雄君 登壇 あいさつ〕

○市長（大谷範雄君） ごあいさつを申し上げます。

平成17年第2回那須烏山市議会臨時会は、本日1日の会期といたしまして開催をされました。上程をさせていただきました15議案及び議会選挙を入れまして16議案は、慎重審議をいただき、いずれの議案も原案のとおり可決、ご決定、同意を賜りましたこと、まことにありがたく執行部を代表いたしましてお礼を申し上げます。

私にとりましても、今期臨時会は初議会でもあり、大変な緊張感でいっぱいでした。さらに、審議の過程の中で一部対応不十分な点もありましたことをおわびを申し上げます。何とぞご了承賜りますようお願いを申し上げます。賜りましたご意見、指摘事項につきましては真摯に受けとめまして、今後の市政運営に資する所存でございます。

新生那須烏山市が誕生いたしまして2カ月が経過をいたしました。新市のこれからの道のりは課題、難題が山積し厳しい状況であることは間違いない事実でありましょう。しかしながら、本市は、自然、やさしさをはぐくむ暮らしやすいまち、そして活力と安らぎの交流文化都市那須烏山市を目指しております。未完成な那須烏山市が未来に向けた夢いっぱいのふるさとづくりが可能なまちなのであります。

私は、まちづくりとはそこに住んでいる人たちが、みずからの判断とみずからの責任でみずからの地域を安全で安心して住むことができ、しかも子供たちが将来にわたり、そこに住んでいたいと思うような自立のできる魅力的な地域社会を民主的につくっていくことだろうと思います。先見の目を持って住民の目線に立って情熱と意欲を持って、市民のしあわせづくりを推進してまいりたいと考えております。

「光陰矢の如し」、気ぜわしい師走に入ってまいります。議員各位にありましては、定例会を初め各種行催事、あるいは年末年始多忙な日々を過ごされることと思います。寒さ厳しき折、健康には十分留意されまして、ますますの議会活動に邁進されますようご祈念を申し上げます。重ねて今期臨時会、無事閉会となりましたこと、感謝とお礼を申し上げましてごあいさつとさ

させていただきます。ありがとうございました。

---

○議長（青木一夫君） 以上で、平成17年第2回那須烏山市議会臨時会を閉会いたします。  
大変ご苦労さまでした。

[午後 3時48分閉会]

上記会議録を証するため下記署名いたします。

平成18年2月20日

議 長 青 木 一 夫

署 名 議 員 沼 田 邦 彦

署 名 議 員 高 津 戸 茂